令和８年度

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

学校教育部教育指導課・教育センター

本市児童生徒の調査結果について報告いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

１　調査の概要

（１）調査実施日　　令和８年４月 23 日（木）…小学校国語・算数、中学校国語・数学
　　４月 20 日（月）～５月 29 日（金）…中学校英語

（２）調査対象　　小学校第６学年　中学校第３学年

（３）調査内容　　国語　　「知識」「活用」を一体的に問う問題
　　算数・数学　　「知識」「活用」を一体的に問う問題
　　英語（中学校・CBT）「知識」「活用」を一体的に問う問題
　　質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

２　教科別結果概要

（令和８年度と悉皆調査実施年度との比較）

（１）全国・千葉県・指定都市の平均正答率（%）と千葉市全体の結果（ここでの全国は公立のみを示す）

【資料1】問題別平均正答率一覧(%)[全国・千葉県・指定都市・千葉市]＜令和5年度～令和8年度＞

			全国 平均正答率※2	千葉県 平均正答率※1	指定都市 平均正答率※2	千葉市 平均正答率	全国との比較
小学校	国語	**令和8年度**	**61**	**61**	**62**	**62**	**1**
		令和7年度	67	66	67	66	−1
		令和6年度	68	67	68	68	0
		令和5年度	67	67	68	68	1
	算数	**令和8年度**	**56**	**56**	**57**	**58**	**2**
		令和7年度	58	58	58	59	1
		令和6年度	63	63	64	65	2
		令和5年度	63	62	63	63	0

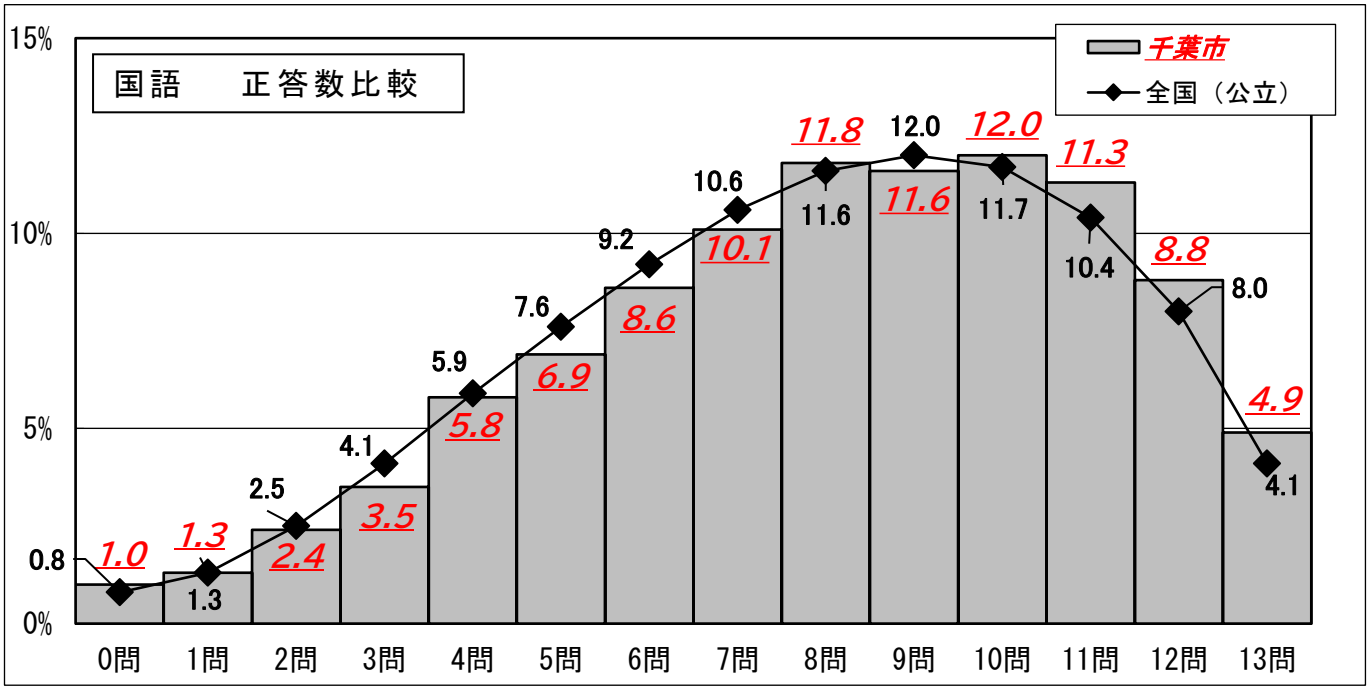
			全国 平均正答率※2	千葉県 平均正答率※1	指定都市 平均正答率※2	千葉市 平均正答率	全国との比較
中学校	国語	**令和8年度**	**64**	**64**	**64**	**66**	**2**
		令和7年度	54	54	55	55	1
		令和6年度	58	57	59	58	0
		令和5年度	70	69	70	71	1
	数学	**令和8年度**	**57**	**57**	**58**	**59**	**2**
		令和7年度	48	47	49	49	1
		令和6年度	53	51	53	52	−1
		令和5年度	51	51	52	53	2
	英語	**令和8年度**	**499※3**	**498※3**	**−**	**505※3**	**6**
		令和5年度	46	46	47	48	2
		令和元年度	56	56	57	57	1

※1　千葉県平均正答率は、千葉市を含んだ千葉県の正答率の数値
※2　全国及び指定都市の平均正答率は、公立のみの正答率の数値
※3　令和8年度より中学校英語 はIRTに基づいて算出される学力スコアの数値
IRT(Item Response Theory)：項目反応理論。問題の特性（難易度や識別力等）と各児童生徒の学力を分けて考える枠組みであり、いくつかの手続を経ることで、異なる時点、問題セット、児童生徒集団等で実施した場合であっても、その結果を相互に比較できるようになる。

（２）正答数の分布（全国との比較）

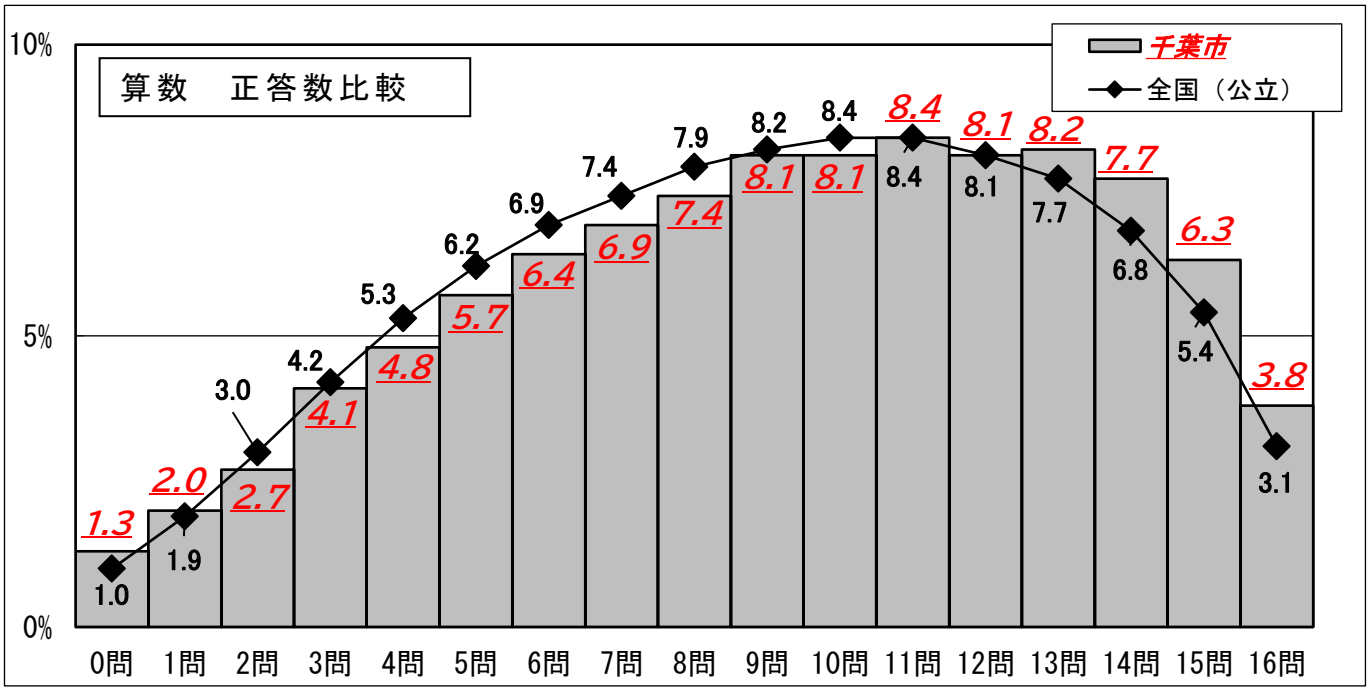
【資料２】正答数分布（横軸：正答数、縦軸：人数の割合）［全国・千葉市］＜令和８年度＞

＜小学校６年生国語＞



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	8.1 問／13 問	8.0	3.0
全国（公立）	7.9 問／13 問	8.0	3.0

＜小学校６年生算数＞

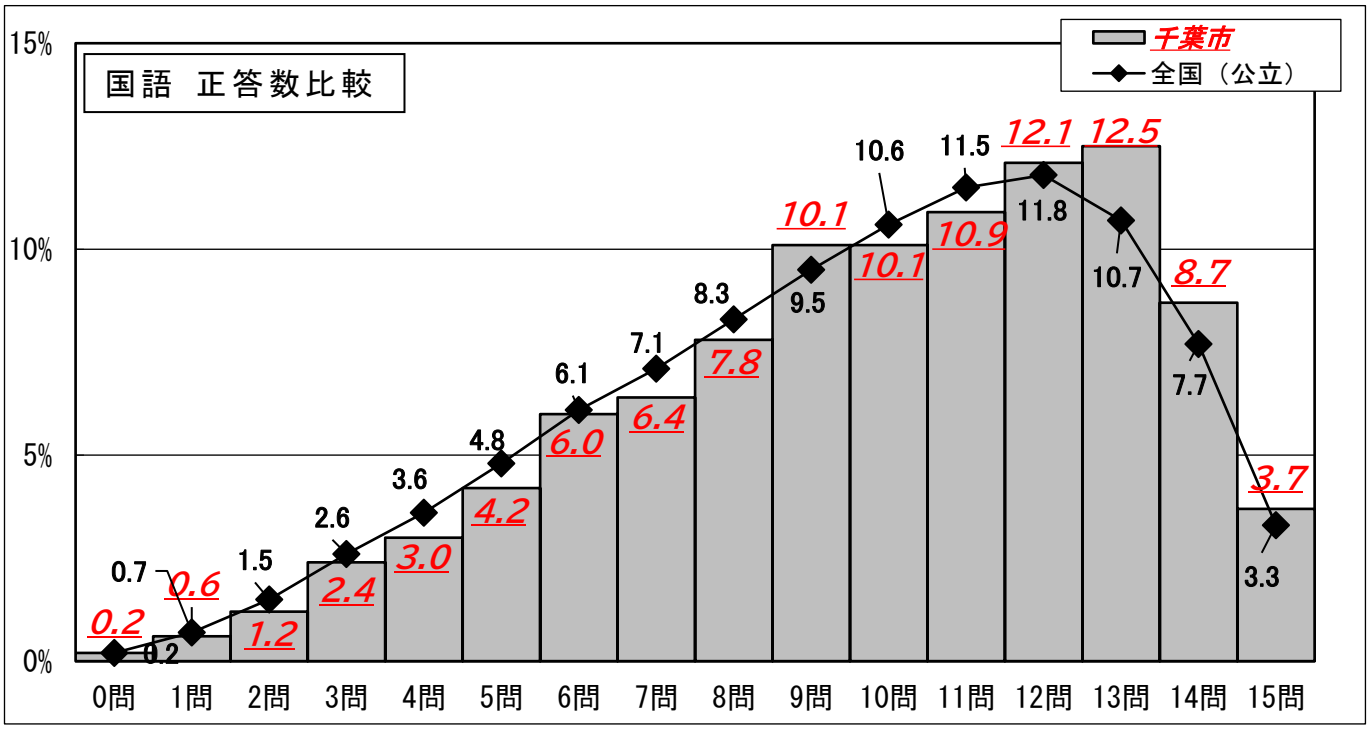


	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.3 問／16 問	10.0	4.1
全国（公立）	9.0 問／16 問	9.0	4.0

・国語では、平均正答数が全国より 0.2 問高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型の分布になっている。正答数が 10～13 問の層は全国と比較して割合が高く、２～７問の層の割合は低くなっている。

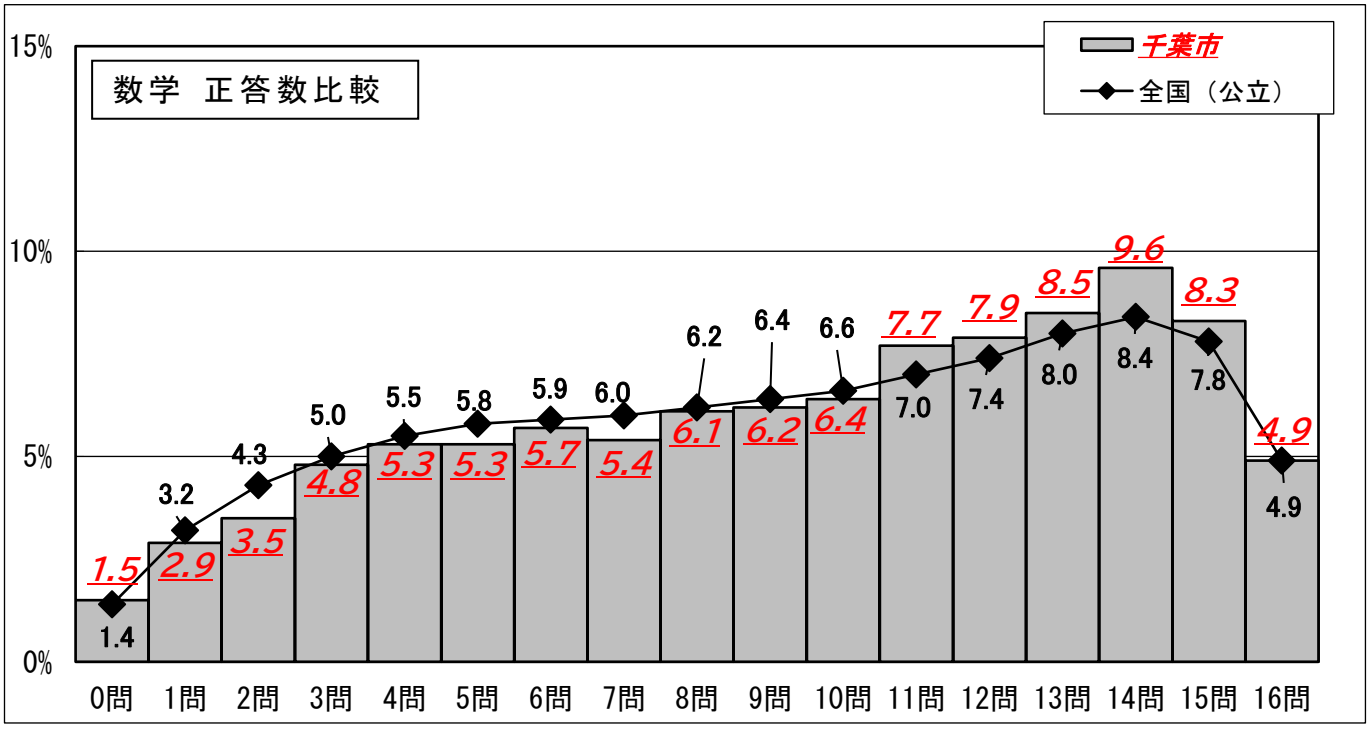
・算数では、平均正答数は全国より 0.3 問高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型の分布になっている。

＜中・中等教育学校３年生国語＞



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.8 問／15 問	10.0	3.3
全国（公立）	9.6 問／15 問	10.0	3.3

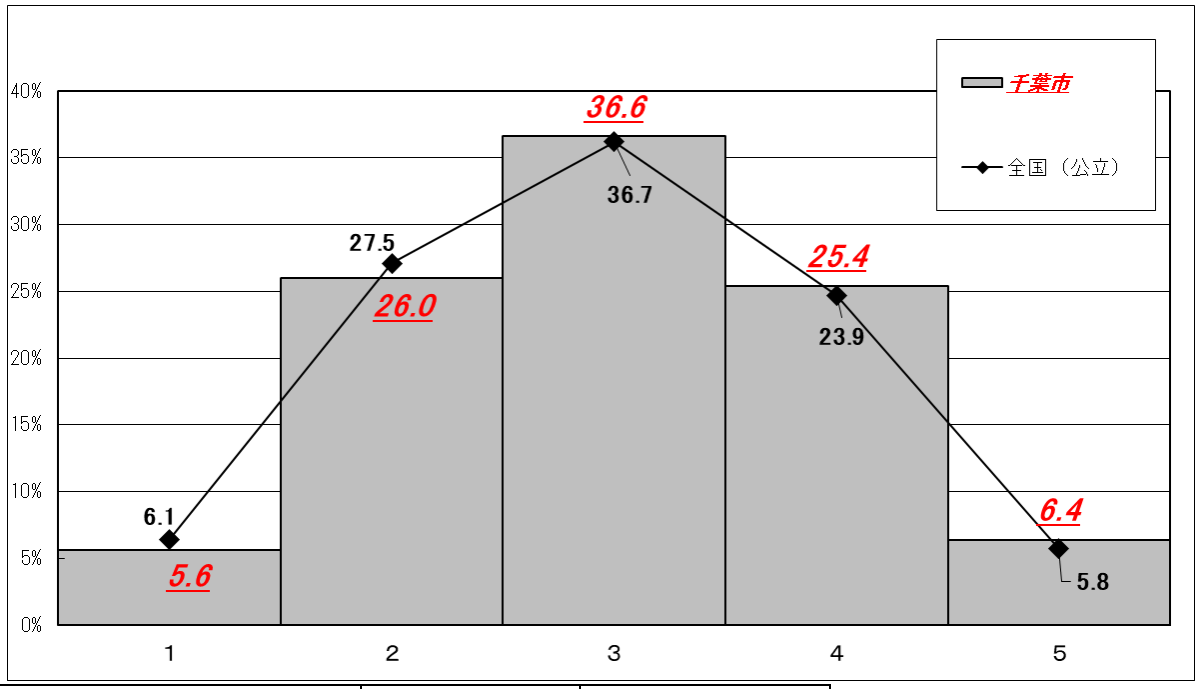
＜中・中等教育学校３年生数学＞



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.4 問／16 問	10.0	4.4
全国（公立）	9.1 問／16 問	10.0	4.5

＜中・中等教育学校３年生英語＞

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：割合）



IRT バンド集計値			
IRT バンド	生徒数	割合（%）	
	千葉市	千葉市	全国（公立）
5	406	6.4	5.8
4	1,619	25.4	23.9
3	2,331	36.6	36.7
2	1,655	26.0	27.5
1	354	5.6	6.1

・国語では、平均正答数が全国より 0.2 問高い。正答数の分布は、全国と同様に９～14 問の正答数の多い生徒の割合が高い、右寄りの山型の分布になっている。
・数学では、平均正答数が全国より 0.3 問高い。正答数の分布は、全国と同様にやや右寄りの山型の分布になっている。
・英語では、３・４・５の IRT バンドの割合が全国より高く、１・２が低い。全国と同様、標準的な正規分布となっている。

全国学力・学習状況調査におけるIRTスコア・IRTバンドについて

IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500を基準にした得点**で表すものです。

（各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。）

IRTバンド

IRTスコアを**1～5の5段階**に区切ったものです。３を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

（各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。）

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

※IRTバンドをIRTスコアに換算すると、およそ以下のような対応関係になります。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	~350	350~450	450~550	550~650	650~

【参考】国立教育政策研究所説明資料より

【資料３】全国平均正答率と自校平均正答率の差異比較で顕著な向上が見られた学校の取組み事例
※国語、算数・数学ともに向上が見られた学校にアンケートを実施

≪各学校の取組み事例から読み取れること≫

○自己調整力を高めていこうとする意識
・「何ができたか」という見方だけでなく、「どのように取り組んだか」という見方(大森小)
・単元の中に、自己調整力向上のため、児童が自分で取り組む学習内容を選択する時間を設定(長作小)
・振り返りの工夫により、児童自身が自己の学びを実感できるように(土気小)

○協働的な学びの効果
・自分の思いを友達に伝える、伝え合う機会(都賀小)
・各教科の様々な場面で少人数で学び合う学習活動を積極的に設定(磯辺第三小)
・協働的な学びを通して個々の思考を深める(有吉小)

○学習面での学校としての体制づくり
・授業を見合った後の座談会を設定してフィードバック(磯辺小)
・習熟度別学習で、理数サポーターや学校運営充実職員を配置しての TT 授業(幸町小)
・朝学習等での T2 によるサポート体制(千城台わかば小)

○学校全体としての意思統一
・前回の全国学調結果での自校の課題点を踏まえ、スピーチや発表を日常的に取り入れる(蘇我中)
・学力向上アクションプランをもとにした生徒の実態共有、定期的な見直し(草野中)

ア　小学校

学校名	取組の内容
本町	・児童が何事も自分事として捉えられるよう、まずは自分の考えをもち、その後共有したり学び合ったりする時間を設けた。 ・週１回の「のびのびタイム」で一人一人が計画・実行・振り返りを行い、自己調整力を身に付けた。
都賀	・理科、生活科の研究に取り組み、互いを認め合い、かかわり合う学びを目指して授業研究に取り組んできた。自他を尊重する学びは、考えを広げたり深めたりすることにつながり、学力の向上にもつながっていると考えている。 ・家庭と連携して基礎的な学習の充実に取り組んでいる。 ・朝学習や授業でペアや小グループの話し合い活動を行い、自分の思いを友達に伝える機会を多く取り入れている。 ・「よくわかる！　都賀小」を作成し、学校生活の決まりやルール等を保護者、児童に周知して、落ち着いた雰囲気と規律ある学習環境を作っている。
大森	・取り出し指導（もりもりルーム）の活用 週１回で、希望する児童を対象に取り出し指導を行っている。取り出し指導を希望する児童は、担任が個別の指導計画を作成する。取り出し指導の時間に行う課題については、指導計画を基に、一人一人に合ったものを行っている。 ・キャリア教育の視点に基づく教育活動の充実 振り返り活動などを通して自分を見つめ直し、そこから自分の目指す姿を設定させ、見通しをもって学習活動を行ったり学校生活を送ったりできるようにしている。「何ができたか」という見方だけでなく、「どのように取り組んだか」という見方も大切にするよう指導を行ったことで、児童自身が自己の成長を実感し、何事にも前向きに取り組める児童が増えた。
長作	①「基礎・基本」の力の向上【計算、漢字に重点を置いて】 ・週３回の朝帯「ぐんぐんタイム」で既習の漢字学習と、算数の復習や計算練習を行う。

	・１・２年は「漢字の学習ドリル」を用いて新出漢字の練習の仕方を統一して指導する。言葉や読み取りはデジタルドリルを活用する。 ・３～６年は「国語ドリル」「漢字練習帳」を用い系統立てた漢字指導・添削を統一して行う。 ・１・２年「算数ドリル」　３～６年「計算ドリル」を活用し、朝学習、毎時間の算数学習、単元内に設置する「うめりんタイム」で繰り返し計算する。 ・宿題は復習を基本とした内容とし、原則計算・漢字・音読に特化する。 ②「読む」力の向上【読書教育、問題の解法指導に重点を置いて】 ・国語・算数の学習の中で「文の意図」を理解する時間を丁寧にとる。文章題の題意や、教材文のねらいに合わせた指導、教材文のどこに意識して読むべきなのかを共通理解するなどの手立てをとる。 ・教科書で紹介される「学習の段階に合わせた本」に沿って、担任が選書指導を行う。 ・国語の読書単元を生かし、近接学年で交流する「読書郵便」を行う。 ・図書室の新刊を各学級で読み味わう「ブックラック学級巡回」を行う。 ③「自己調整」の力の向上【計算、漢字の学習の中で】 ・国語、算数の小単元の中盤や終末に１時間程度、「うめりんタイム」自己調整のための時間を設定する（指導の実態をみながら必要な単元において、つまずきやすい学習内容の所を中心に）。児童が自分で考えて取り組みたいものを選択する。得意な児童はより高度な問題や計算に挑戦したり、苦手な児童は基本的な問題を丁寧に取り組んだりできるようにする（各学年、年間 10～15 時間程度を想定）。定着できてない場合の復習タイムとしての活用もできるものとする。自分の現状を児童が振り返るきっかけとなる。学習が苦手な児童、得意な児童のどちらにも効果的である。
誉田	・学力向上アクションプランに基づき、児童の学習状況を把握し、学年で課題を共有しながら授業改善に取り組んだ。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業づくりを進め、自分に合った方法で学習したり、友達と考えを伝え合ったりする場面を設定した。 ・ICT やヒントカード、学年ごとのキャスター付き棚（難易度別のプリント）を活用し、児童一人ひとりの理解度やつまずきに応じた学習支援を行った。 ・児童の学習状況や学年の実態の影響も考えられるが、１年生からの継続的な授業改善や個に応じた支援により学習に主体的に行動できる児童の姿が多く見られるようになった。
土気	・学習内容を振り返るたしかめプリントの活用や、事前にテスト内容を示し、計画的に課題に取り組むなどして復習の機会や期間を設けることで、既習内容の定着を図った。 ・漢字や計算など、週１回の自主学習を継続的に行うことで、基礎・基本の定着を目指した。 ・毎時間、振り返りの場面（前時までの振り返りや学習後の学び）を工夫し、児童一人一人が学びの成果を実感できるようにした。 ・学校支援員や理科教育サポーターを学級に配属し、学習の支援や支援が必要な児童への対応を行った。 ・ギガタブ等ＩＣＴを有効活用することで、児童の学習への意欲を高めた。
高洲三	１学年内での教科担任制の実施 学年内で教科によって、担任が交代して授業を実施した。学年で事前に教材研究を行い、抑えるべきポイントを話し合って実施した。 ２自由進度学習の実施

	学年の実態によって、算数の単元によって自由進度学習を実施した。各児童が自分のペースで学習を進められるため、自分から学習に取り組む意欲向上と基礎・基本となる部分や単元のポイントを理解する時間が生まれ、取り組むことができた。 ３学校支援員や理数サポーター、日本語指導担当の活用 学級担任の要望や児童の実態と照らし合わせて学校支援員や理数サポーター、日本語指導担当を計画的に配属し、学習の支援が必要な児童への対応を行った。学級担任に時間的に余裕が生まれ、児童の良いところに気付く時間も増え、称賛する声かけが自然と多くなり、自己有用感の向上につながった。
磯辺三	・多くの児童が毎時間の学習目標を理解した上で学習活動に取り組めるように、学習のめあての共通理解を丁寧に行った。また、学習活動や内容に対する振り返りやまとめを丁寧に行うことで、児童が自身の学びへの関わりを見つめ直す機会を確保した。 ・各教科の様々な学習場面において、少人数で学び合う学習活動を積極的に設けた。その際には、児童に学び合うねらいを明確に提示した上で活動を行うことで、学習目標が達成できるようにした。 ・教科担任制や交換授業を取り入れ、教職員が教材研究や授業準備を十分に行うことができる体制を整えることで、授業の質の向上が図れるようにした。 ・ミニテストの継続的な実施や ICT 機器の活用をしたことで、児童が学習内容を復習する機会を確保した。
泉谷	・朝学習の時間の充実 学校全体で曜日ごとに計算・漢字等の課題を設定し、ドリルに取り組んだり、ギガタブのドリルパーク学習に取り組むなどして学習内容の定着を図った。 ・個別最適な学びの実践 ワークシートの難易度を調整したり、集団・個別の学習を組み合わせたりすることでそれぞれの児童の学習進度や特性、到達度に合った学習方法を選択できるようにするなど、習熟度を意識した学びを行い、指導方法の個別化に取り組んだ。 ・ギガタブ等の ICT 活用 学習にギガタブ等を利用することで、子供たちの考えの共有のしやすさを改善したり、学習意欲の高まりを図ったりするなどして、有効活用できるよう積極的に利用した。
有吉	・学習目標を明確にし、一人一人が見通しをもって学習を進められるようにする。導入の場面では学習計画を児童と一緒に作り、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。 ・教材や資料の工夫、提示方法の工夫を図る。身近な素材や児童の経験を活用し、自分事としてとらえられるようにする。 ・ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。 ・ペアトークや読書活動、話し合い活動など、年間を通して、児童の実態に合った常時活動を取り入れる。 ・根拠や理由を伝え合い、学び合う協働的な学びを通して個々の考えを深める学習活動を充実させる。 ・学んだことを生かしたり、自己の学びを振り返ったりする場面を設定し、学習のよさに気付き、生活や学習に活用しようとする態度を育成する。 ・チャレンジタイム（朝学習）でギガタブやプリントやドリルを活用し、「読み・書き・計算」の繰り返し学習を行う。

磯辺	・「自ら学びに向かい　問い続ける子の育成」を研究主題とし、学校の目指す子供像を職員で年に複数回共有。「子供が何をどう学ぶのか」を意識し、各職員の課題を設定し、実践授業を年間４２展開行った。どの展開授業でも職員間で座談会として短時間のフィードバックを行った。子供たちの学習に対する必要感・有用感を高めることができ、主体的に取り組む子の育成につなげている。 ・本校の児童の課題もこまめに共有しており、自分の考えを伝える力や問題解決能力の育成を意識した授業を教師が引き続き実践している。
幸町	・日々の授業の充実を図り「わかる授業」を実践した。 ・算数の授業において、習熟度別学習を行った。さらに、算数が苦手なグループに理数サポーターや学校運営充実職員を配置して、TT で授業を行った。 ・研究を軸に、全校でノートの書き方を統一し、学年や担任がかわっても、学びが継続できるようにした。
千城台わかば	・わかばチャレンジ（朝学習）では、既習の漢字や計算、九九の反復練習等、個別にゴール設定できる内容のものに繰り返し取り組み、基礎・基本の定着を図った。 ・わかばチャレンジ(朝学習)や算数の授業(校内研究教科)において、T2 を取り入れ学習内容の理解が不十分な子を中心にサポートできる体制を整えた。 ・算数の学習で T2 の体制がとれた場合は、授業内容をできる限り問題を解く時間に当てたことで、児童がそれぞれの実態に応じた量や内容に対し、意欲的に取り組む時間になっていた。

イ　中学校

学校名	取組の内容
蘇我	・前回の全国学力状況調査において、対話や発表といった「アウトプット型」の学習活動に課題が見られたため、スピーチや発表を特別な学習活動にせず、日常的に取り入れるよう心がけた。 ・教師に相談しづらいという前回のアンケート結果を受けて、心理的な安心感や居心地の良さを築けるように、生徒との人間関係を大事にすることを全職員で心がけた。具体的には褒める指導を増やし、生徒が自信と意欲をもって学習に取り組めるように努めた。 ・夏季休業中や定期テスト前に学習相談期間を設け学習内容の定着を図った。 ・教科会議を定期的に開催し、学力向上アクションプランを用いながら、課題の克服に努めた。 ・【数学】単元末テストを実施し、一定の点数以下の生徒については、放課後に補習や再テストを実施し、基礎・基本の定着を図った。
千城台西	・ギガタブを使用したドリル学習の時間を昨年度より５分増やし、学習の習慣化を図る。 ・家庭学習による振り返りを習慣化させるために、達成感を味わえるよう、１日１ページノートの活用やギガタブを使用したドリルパークなど、学年の実態に合わせた取組を行う。時間の目安や取り組んだ時間を可視化させ、習慣化を図る。 ・ドリルパークやテストパークの取組を評価につなげる。 ・各教科における基礎基本について定義する。また、学んだことを実生活に生かす取組を明確化する。 ・数学においては、少人数指導を行い、一人一人のつまずきに気付き、課題解決を図る。

星久喜	・漢字テストを月３回を目安に実施。週に１回「今日の言葉」を取り入れ、語彙を増やせるような機会を増やしている。（国語科） ・「なぜ」「どうして」といった発問をすることで、生徒が考える場面を授業の中で多く設定した。授業の中で、自分の考えを記述するような問題設定を行った。定期テストにおいて記述問題を必ず数問出題する。定期テスト後に「なぜ間違えたのか」を生徒が分析する時間を設定した。（数学科） ・毎時間、授業の振り返りをする時間を確保して、生徒の理解度を把握した。教科書の内容を深めるために、ALT と連携し、ALT によるプレゼンテーションを取り入れた。（英語科） ・週２日、朝の１５分間にドリルパークによる自主学習を行うことで、個々の課題に合わせた基礎学力の定着を図った。
草野	・「学力向上アクションプラン」を活用。教科会議の時間を活用し、生徒の実態の情報共有やプランの見直しを半期ごとに行った。 ・「国語科」１年次から授業の始めに５分間の漢字練習を行い、小テストを週１回行うことで、知識の定着をはかった。 ・「国語科」語彙力を高めるために語彙ノートを作り、調べることを習慣化した。 ・「数学科」授業開始時に５分間程度前時の内容の確認をしてから本時の内容に入るようにした。 ・「数学科」単元や章ごとに小テストを行い、すぐに結果を返すことで苦手の改善がしやすくなった。
天戸	・基礎基本の定着に重点を置き、授業の導入時等に振り返りや復習の時間を設けるなどして、課題が難しい生徒が取り残されないように支援を行った。 ・学習が苦手な生徒に個別支援を行えるよう、学習相談や夏季学習会などを行い、全職員で学習支援にあたった。 ・年間を通して１日１ページ学習を実施し、自分で継続して取り組む学習の機会を設定した。また、２分前着席など、落ち着いて授業に取り組める環境の整備に全校・学年等で力を入れて取り組んだ。 ・生徒が主体的に学習に取り組めるよう、漢字テストや単元テスト、計算５分テストや証明１問テストなど、小さな「できた」を実感できる機会を定期的に設けた。 ・思考の過程を記述で残すことを重視した指導を行った。課題で誤った答えがでてきた時には、答えを直すのではなく、その過程のどこを直すべきかを追及することを重視した。 ・「どうやるのか」という方法だけでなく「なぜやるのか」についても丁寧に言及し、生徒が学習内容について、納得感をもてるように工夫した。 ・生徒が興味をもてるような内容、課題を定期的に取り入れて授業を行った。
土気南	・他学年と比べて生徒人数が少ない中で、ほぼ一小一中で小学校の頃から４学級を維持することができている（各学級 26・27 名の在籍）ため、各教科で生徒に対してきめ細かい指導をすることができている。 ・国語においては、昨年度正規の国語の教員ではなく、他教科専門の教員が４クラス中３クラスを受け持っていた状況であるため、何か特別なことや授業改善になるような取り組みはできていない。 ・数学においては、毎時間授業開始時に前時の復習ができるミニプリントを行い、習熟を確認している。 ・数学の授業は毎時間教員が作成したプリントを用いて授業を進め、豊富な問題量をこなしており、各章のまとめの時間にも基本問題から発展問題まで多くの問題に触れる機会を設定している。

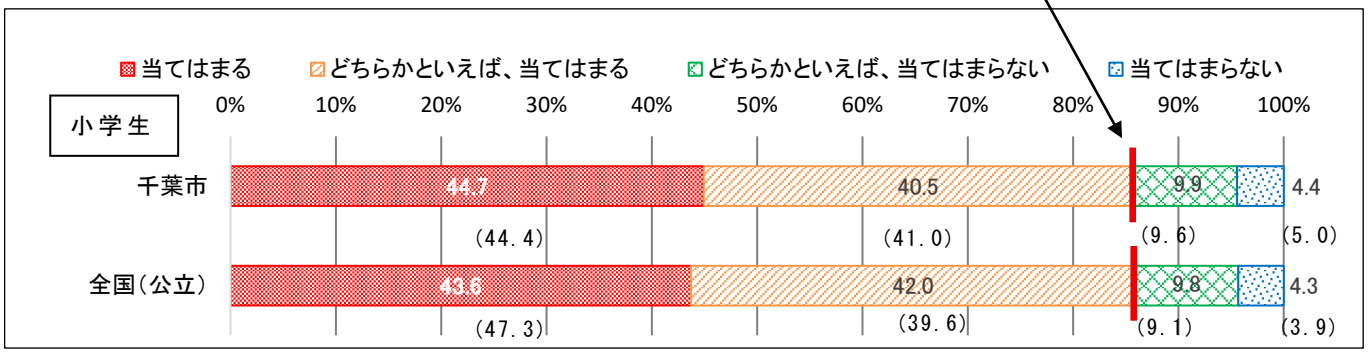
３　質問調査結果概要

【資料４】児童生徒質問調査より［千葉市・全国］＜令和８年度＞
※帯グラフの（　）の数字は、令和７年度同質問の回答の割合を示している。
※小数第２位以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

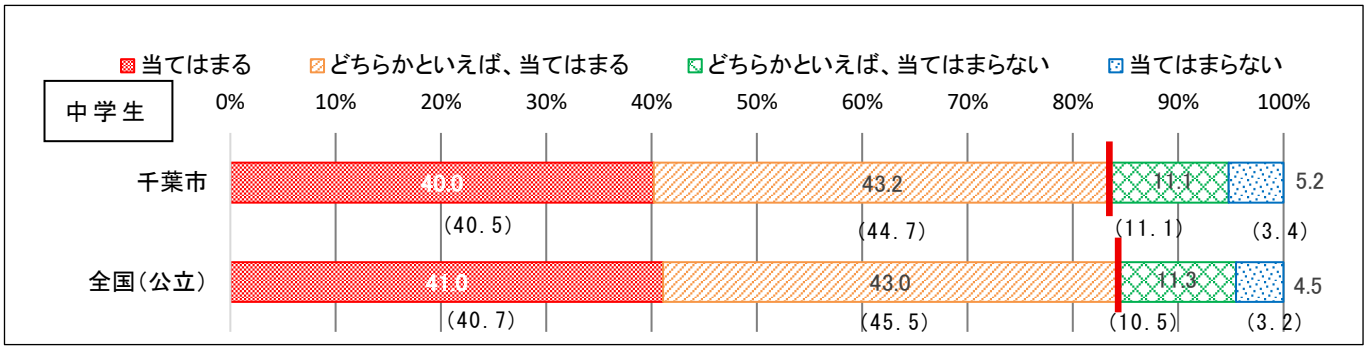
〔自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識〕

肯定的回答をまとめた部分を縦線で表示

1　自分には、よいところがあると思いますか。

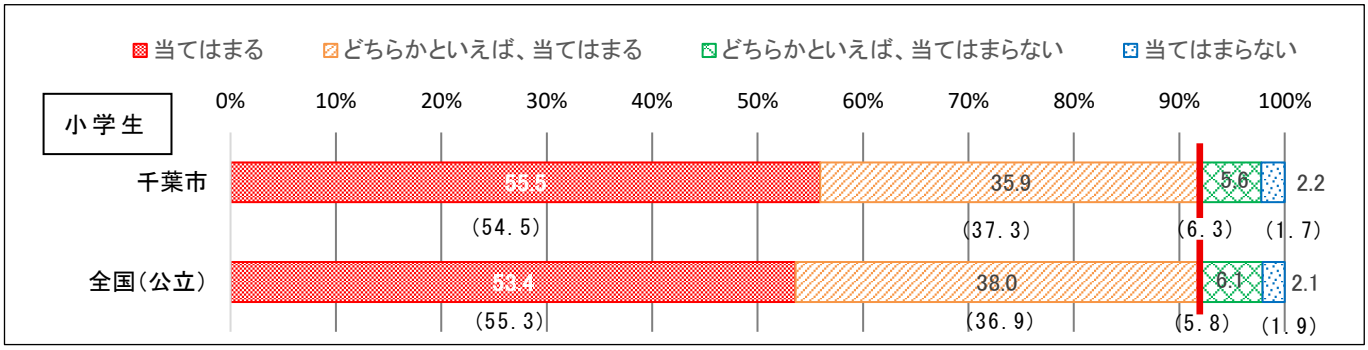


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→85.2%（全国より 0.4 ポイント低い）

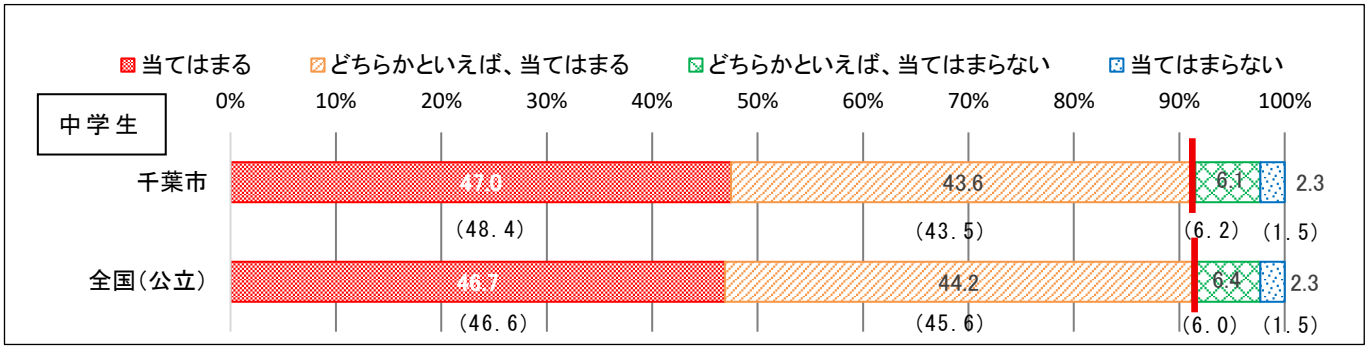


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→83.2%（全国より 0.8 ポイント低い）

2　先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

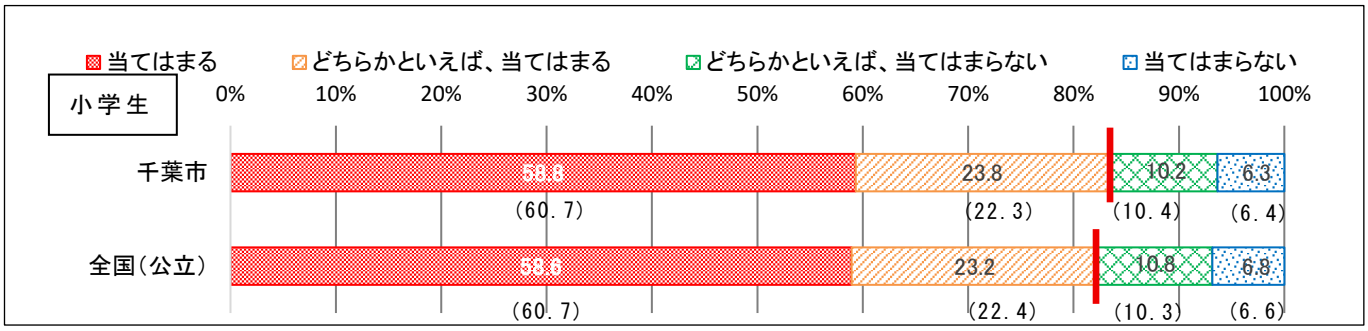


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→91.4%（全国と同ポイント）

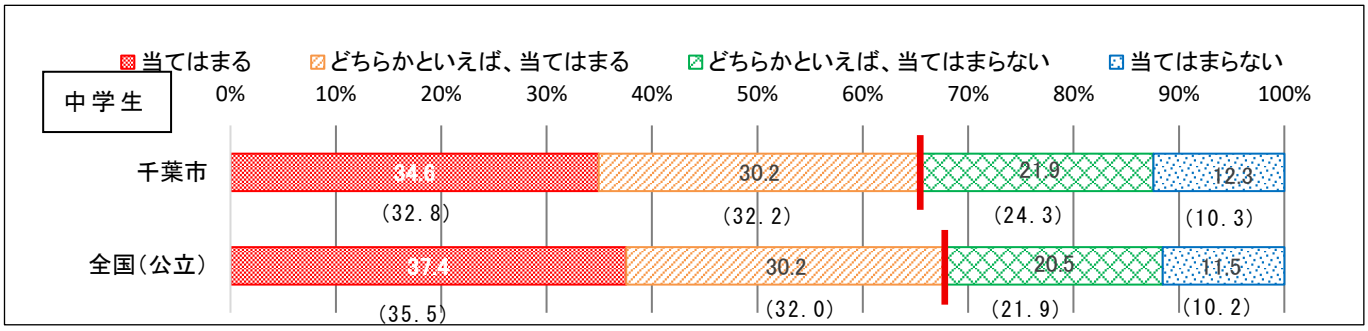


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.6%（全国より 0.3 ポイント低い）

3　将来の夢や目標を持っていますか。

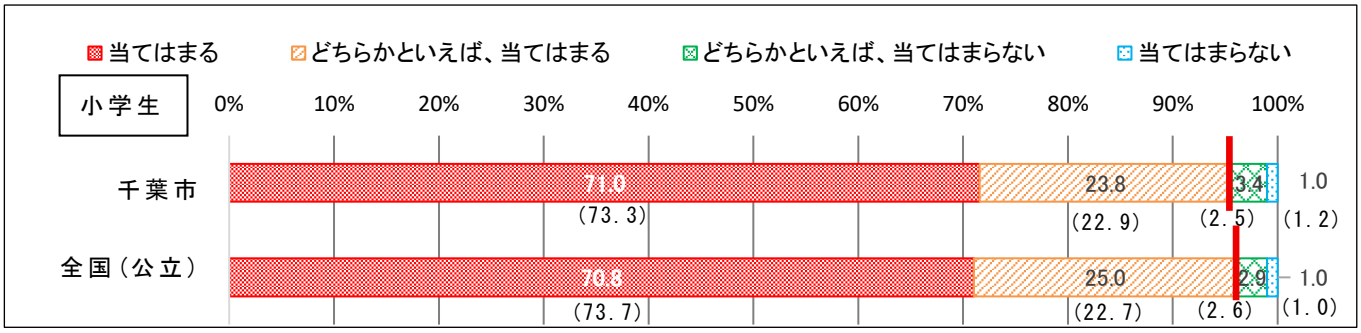


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→82.6%（全国より 0.8 ポイント高い）

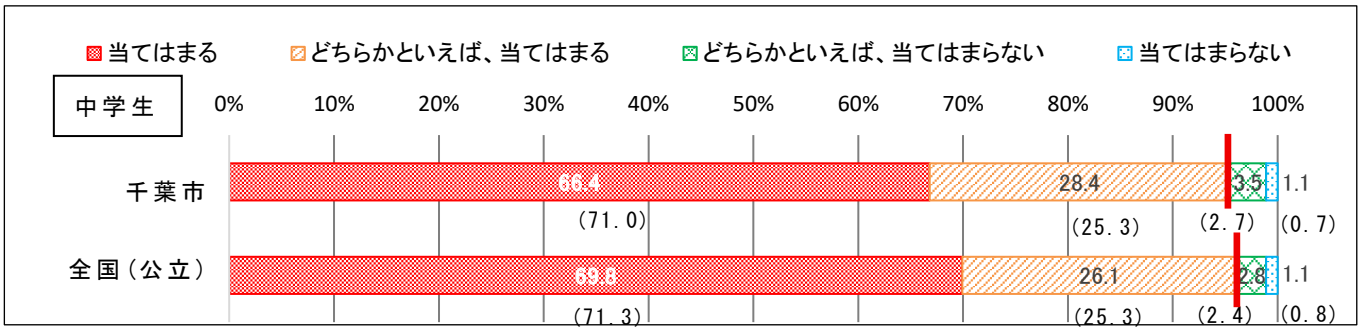


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→64.8%（全国より 2.8 ポイント低い）

4　人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→94.8%（全国より 1.0 ポイント低い）



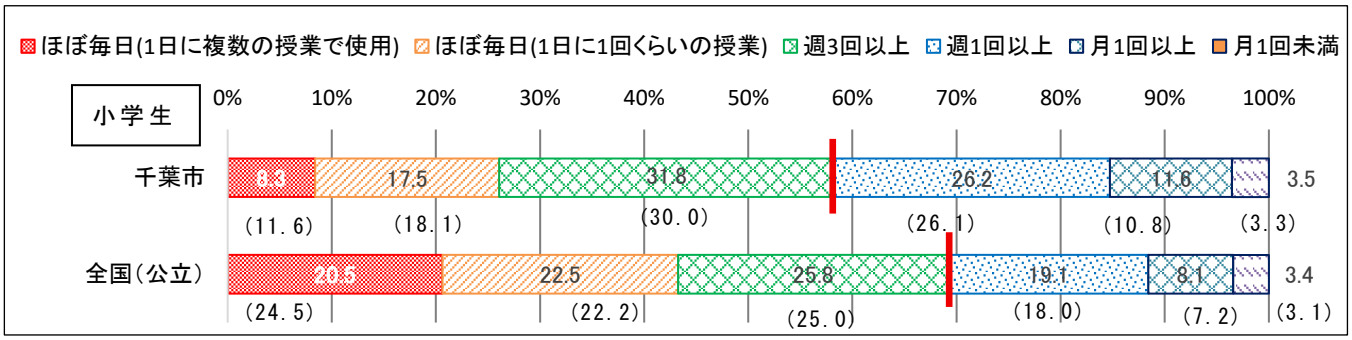
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→94.8%（全国より 1.1 ポイント低い）

○項目１「自分にはよいところがある」と思う児童生徒は、全国平均をわずかに下回っているが、昨年度（小…全国比－1.5 ポイント　中…全国比－1.0 ポイント）からは向上が見られ、自己肯定感での改善傾向が伺える。

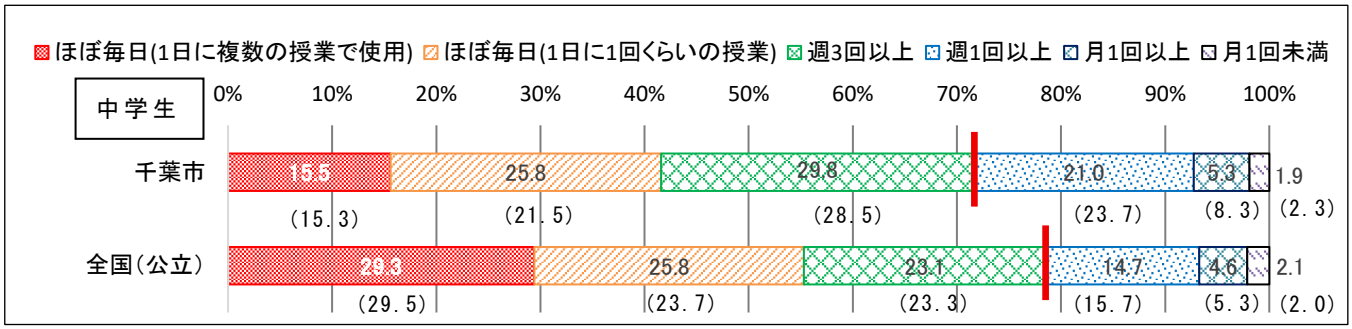
○項目３「将来の夢や目標」を「持っている」と答えた割合では、小学生が昨年度は全国比較で低かったが、今年度は全国比較でプラスとなったのは良い傾向である。

〔ＩＣＴ機器の活用に関する意識〕

５　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか。

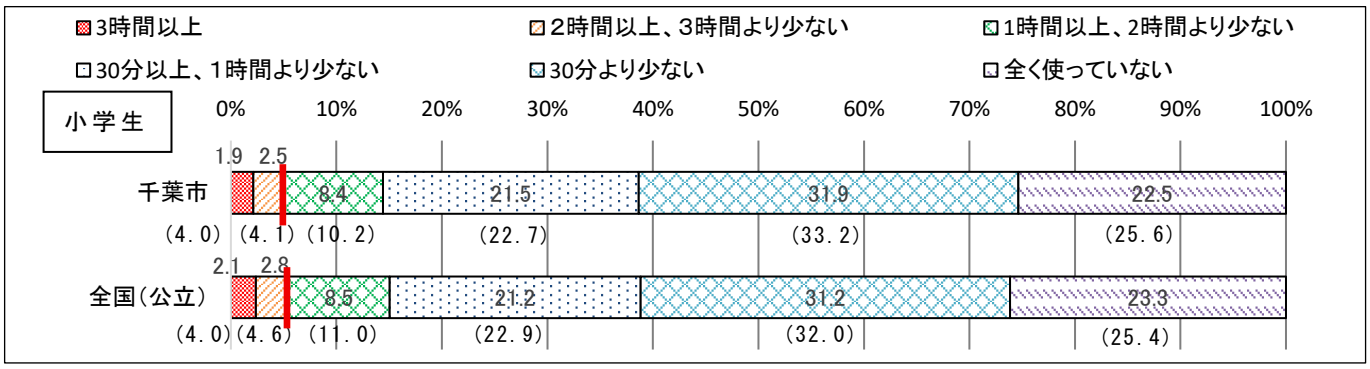


・ほぼ毎日、週３回以上→57.6%（全国より 11.2 ポイント低い）

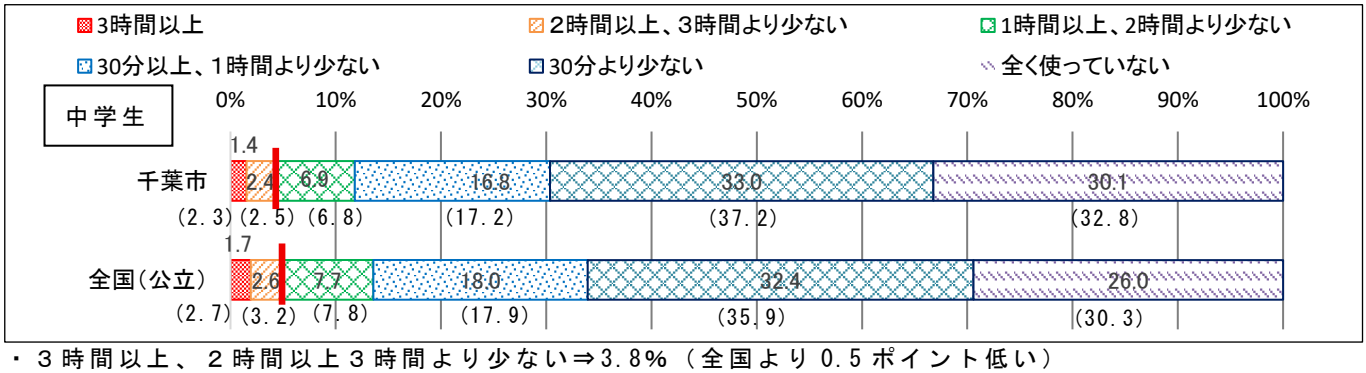


・ほぼ毎日、週３回以上→71.1%（全国より 7.1 ポイント低い）

６　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）。



・３時間以上、２時間以上３時間より少ない⇒4.4%（全国より 0.5 ポイント低い）
・1 時間以上 2 時間より少ない、30 分以上 1 時間より少ない⇒29.9%（全国より 0.2 ポイント高い）
・30 分より少ない、全く使っていない⇒54.4%（全国より 0.1 ポイント低い）

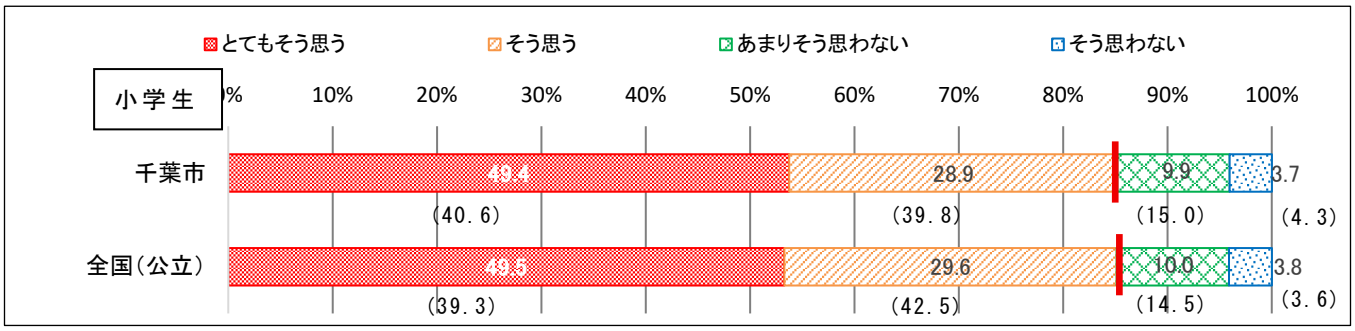


・３時間以上、２時間以上３時間より少ない⇒3.8%（全国より 0.5 ポイント低い）
・1 時間以上 2 時間より少ない、30 分以上 1 時間より少ない⇒23.7%（全国より 2 ポイント低い）
・30 分より少ない、全く使っていない⇒63.1%（全国より 4.7 ポイント高い）

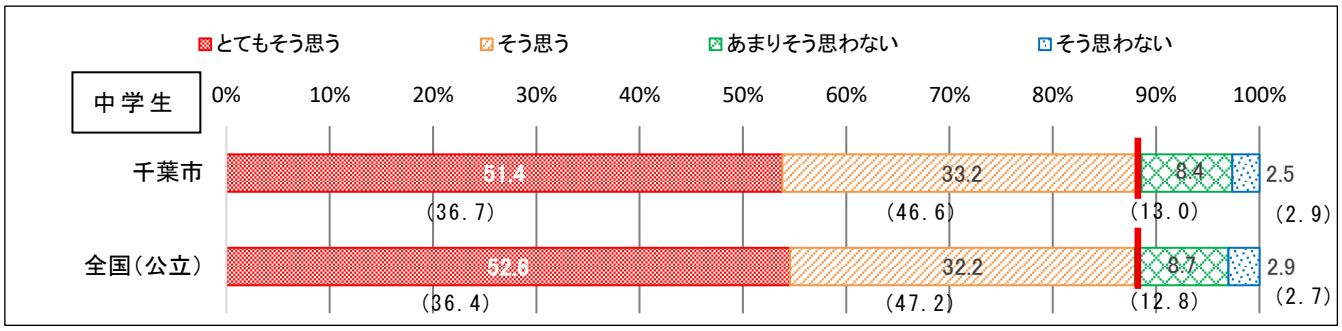
〔ICT機器を活用する自信に関する意識〕

7　あなたは自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って以下のことができると思いますか。

(1)文章を作成する（文字、コメントを書くなど）

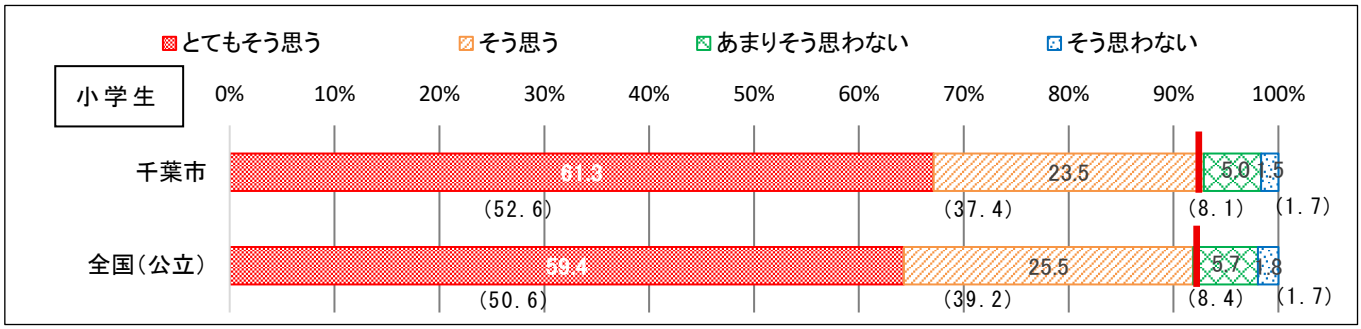


・とてもそう思う、そう思う→78.3%（全国より0.8ポイント低い）

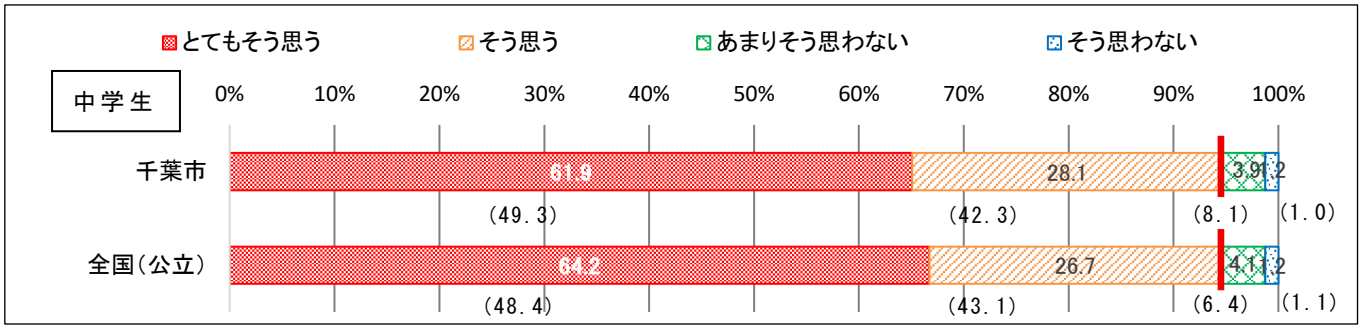


・とてもそう思う、そう思う→84.6%（全国より0.2ポイント低い）

(2)インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）

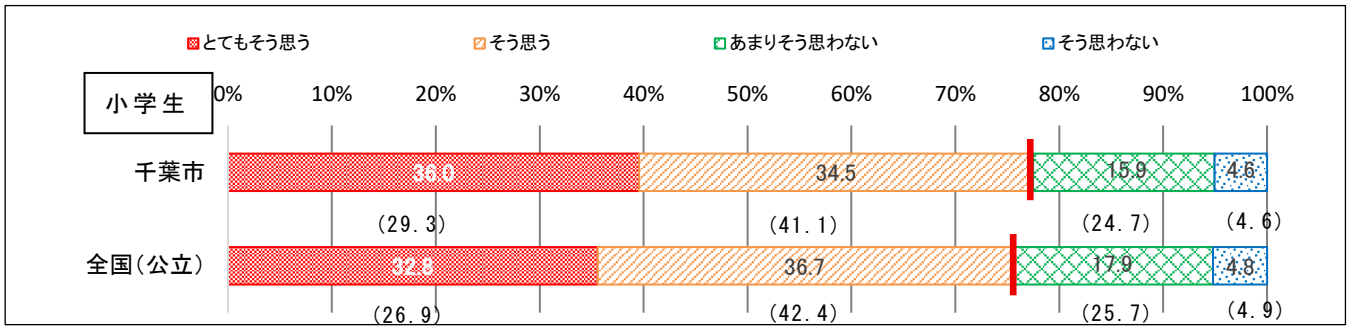


・とてもそう思う、そう思う→84.8%（全国より0.1ポイント低い）

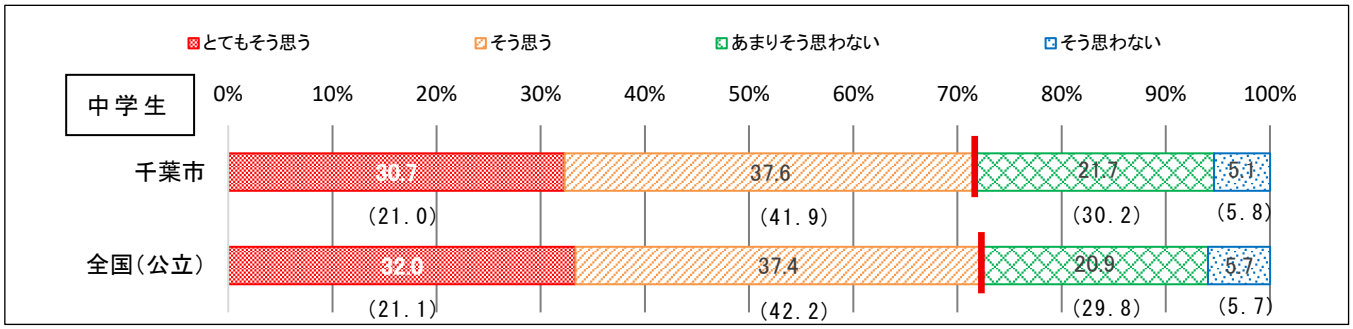


・とてもそう思う、そう思う→90%（全国より0.9ポイント低い）

(3)情報を整理する(図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる)

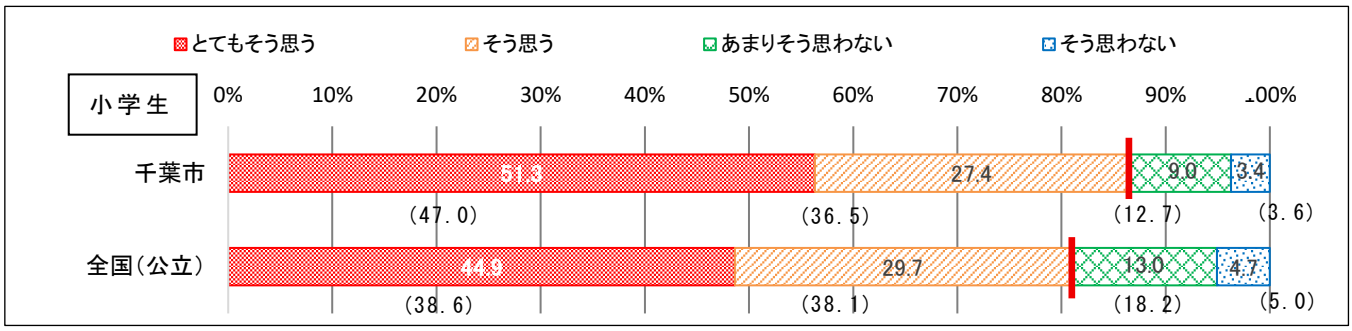


・とてもそう思う、そう思う→70.5%(全国より1.0ポイント高い)

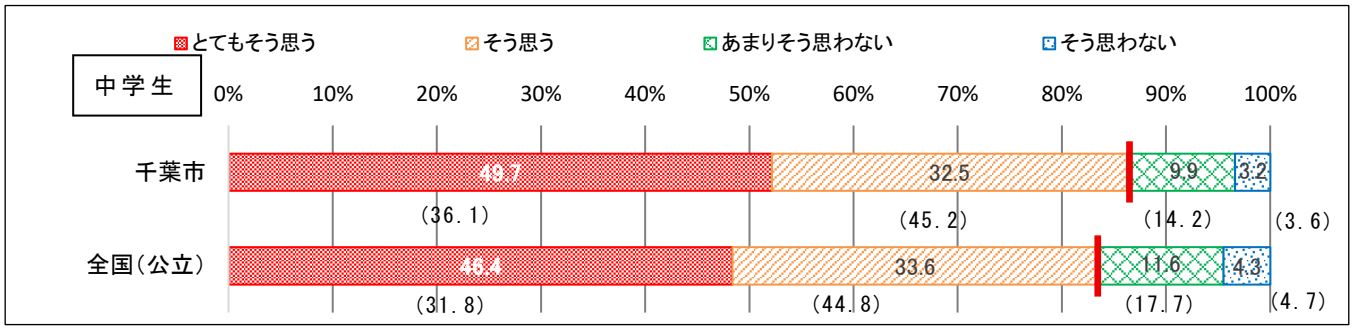


・とてもそう思う、そう思う→68.3%(全国より1.1ポイント低い)

(4)学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成する



・とてもそう思う、そう思う→78.7%(全国より4.1ポイント高い)



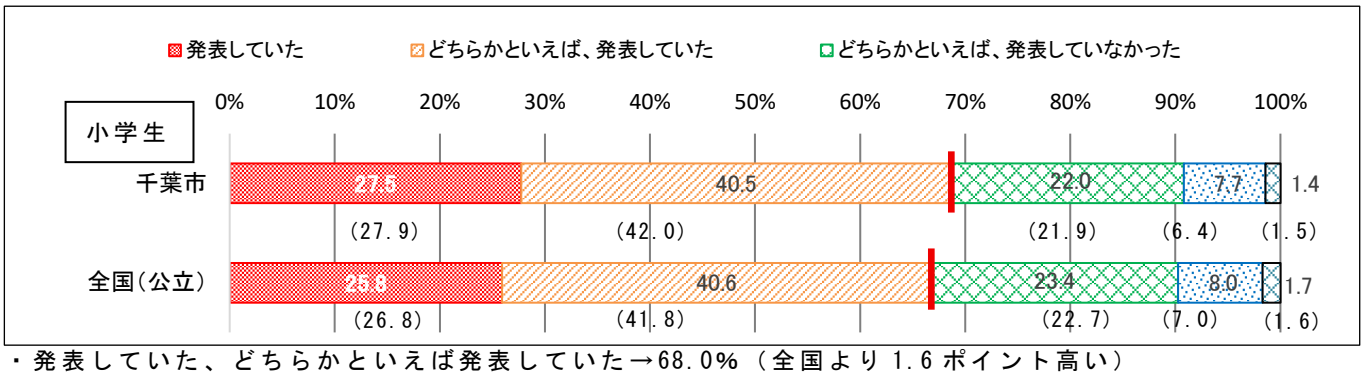
・とてもそう思う、そう思う→82.2%(全国より2.2ポイント高い)

○項目5　「授業でICT機器をどの程度使用したか」では、小中ともに全国比は低いものの、昨年度の全国比(小…－17ポイント　中…－16.4ポイント)に比べると改善が見られ、小中共に使用頻度が少しずつ向上していることが見られる。

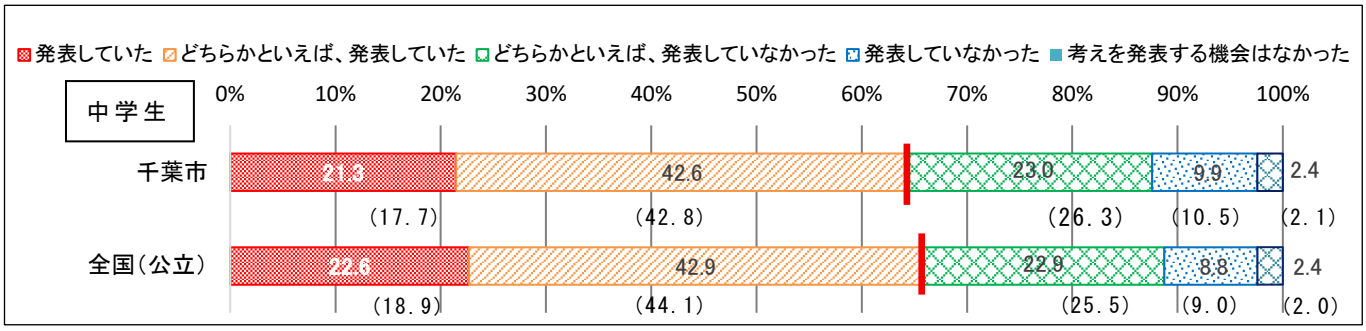
○項目7(4)「プレゼンテーションを作成することへの自信」が小・中学校共に全国平均を上回っていると共に、中学では、肯定的回答の割合が増えており(R7　81.3%→R8　82.2%)、日頃の学習成果が反映されているといえる。その他でも、ICT機器を活用する自信に関する質問では全国平均と比べてほぼ同水準の項目が多く、本市児童生徒の意識に改善傾向が見られる。

〔主体的・対話的で深い学び（個別最適な学びと協働的な学び）に関する意識〕

８　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

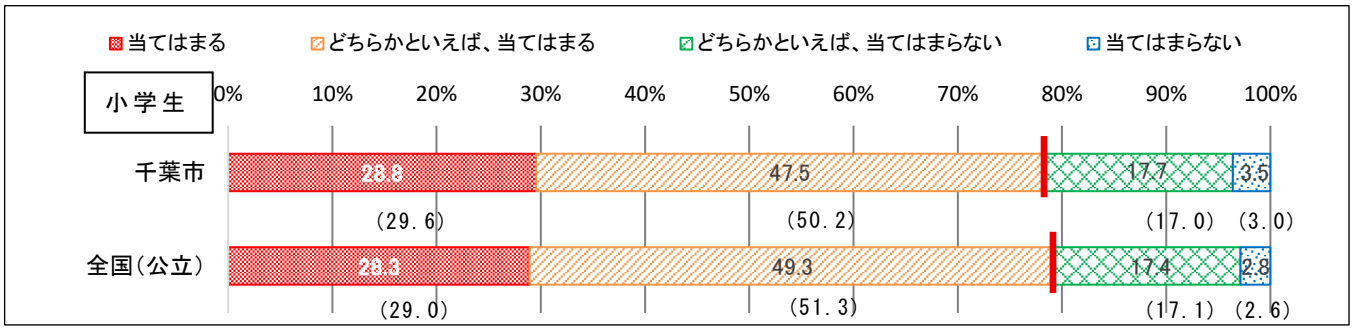


・発表していた、どちらかといえば発表していた→68.0%（全国より 1.6 ポイント高い）

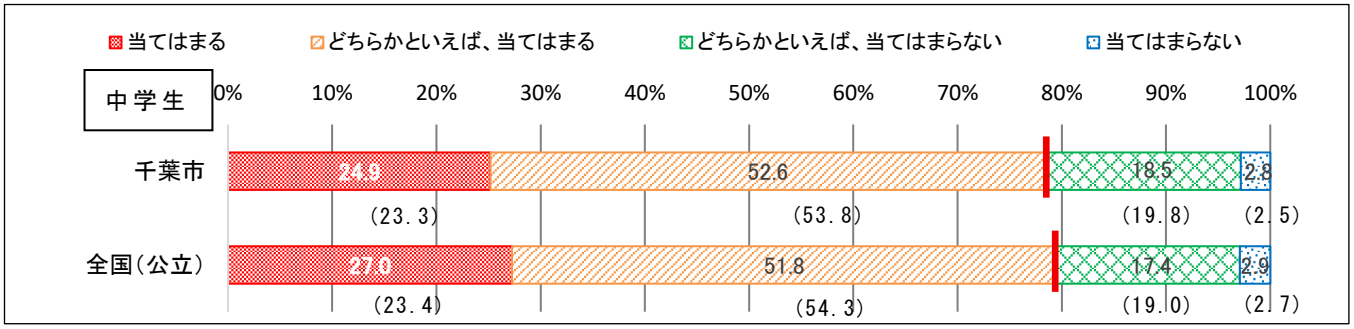


・発表していた、どちらかといえば発表していた→63.9%（全国より 1.6 ポイント低い）

９　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

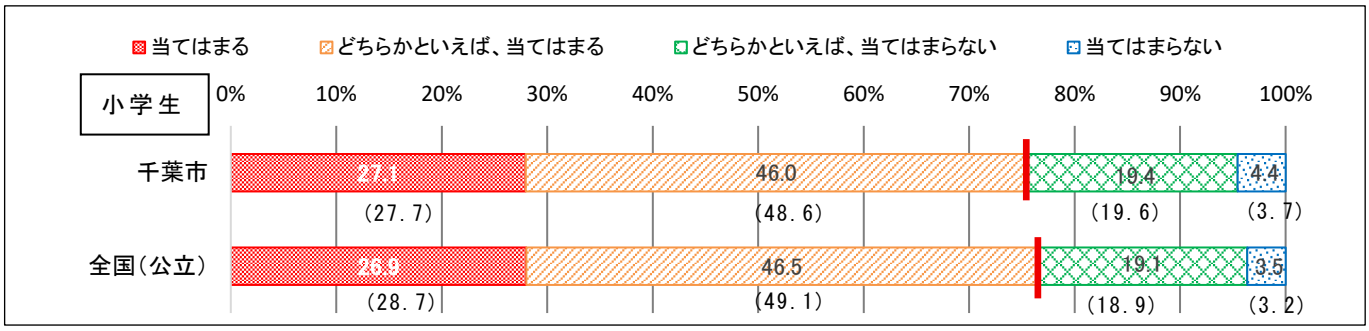


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.3%（全国より 1.3 ポイント低い）

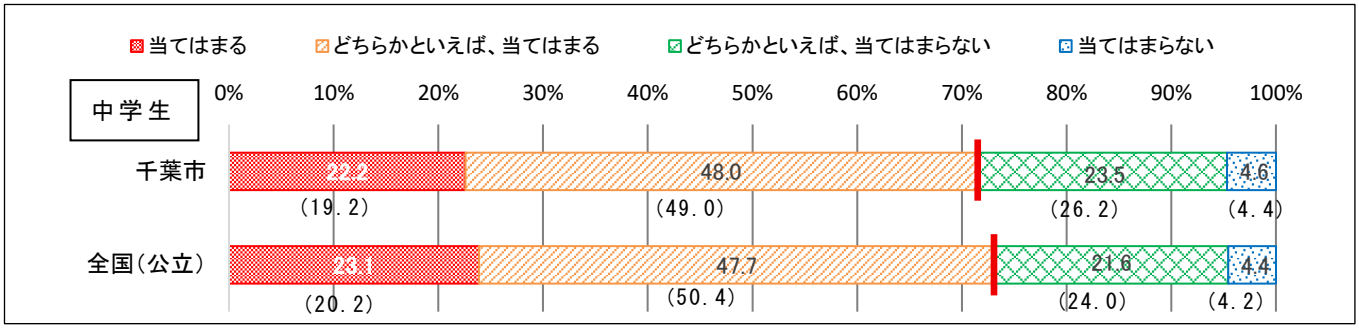


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→77.5%（全国より 1.3 ポイント低い）

10　５年生（１、２年生のとき）までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

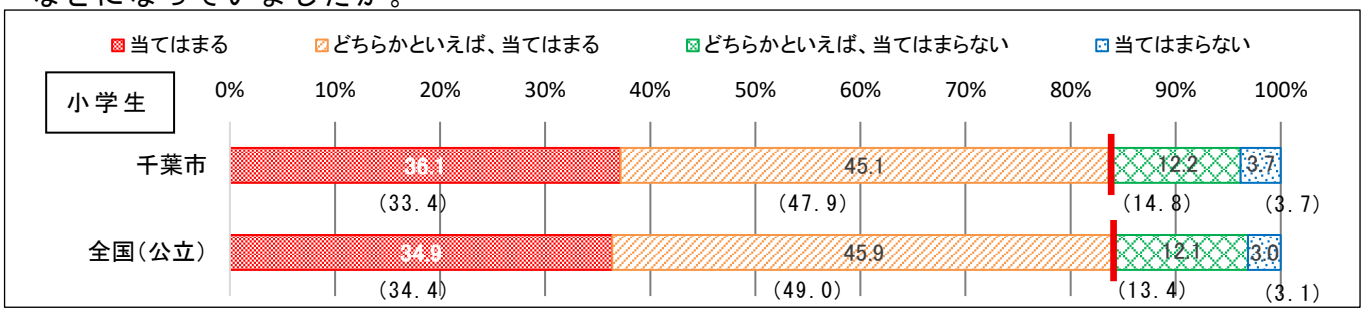


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→73.1%（全国より 0.3 ポイント低い）

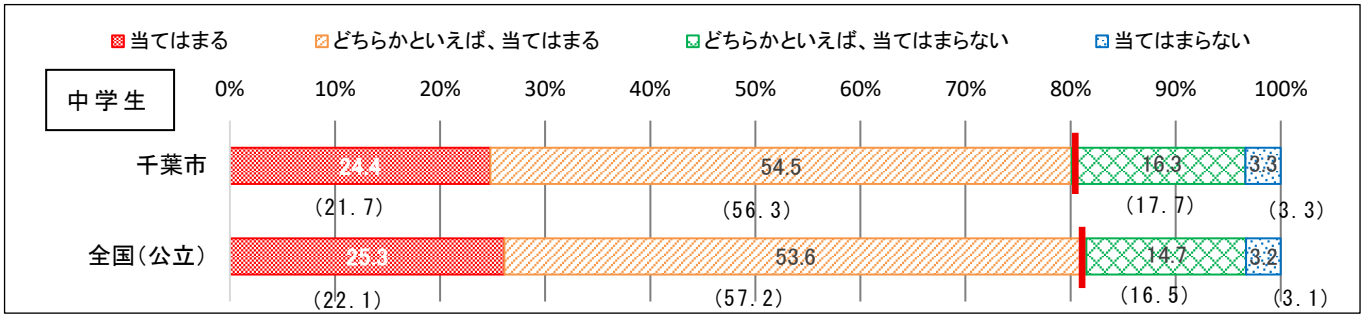


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→70.2%（全国より 0.6 ポイント低い）

11　５年生までに（１、２年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

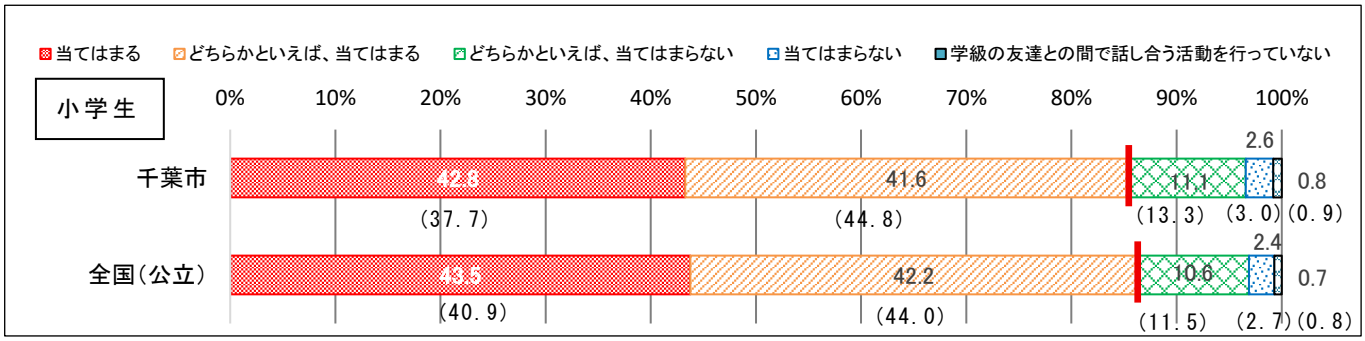


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→81.2%（全国より 0.4 ポイント高い）

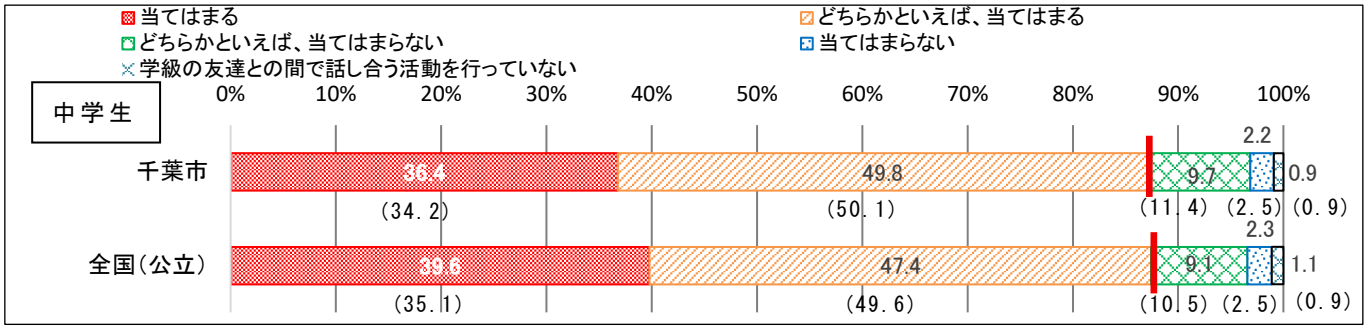


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→78.9%（全国と同ポイント）

12　学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
＊令和７年度は「広げたりする」

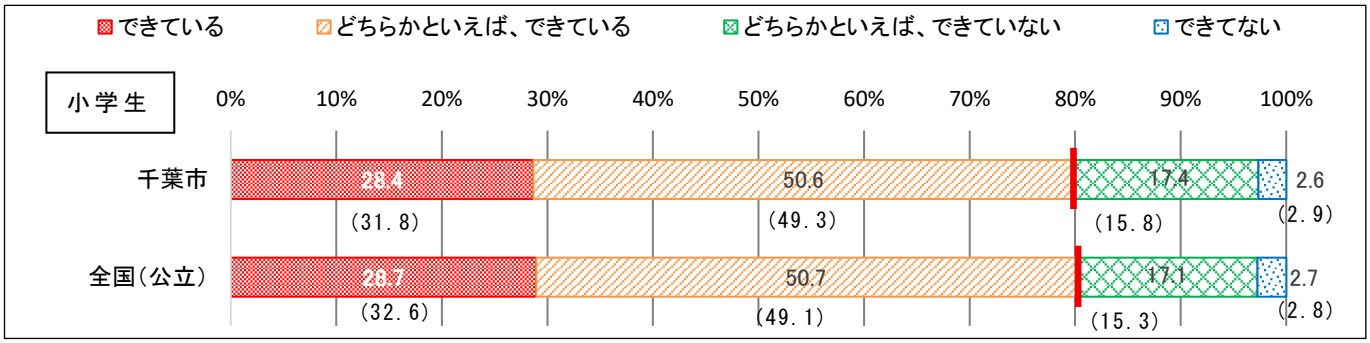


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.4%（全国より 1.3 ポイント低い）

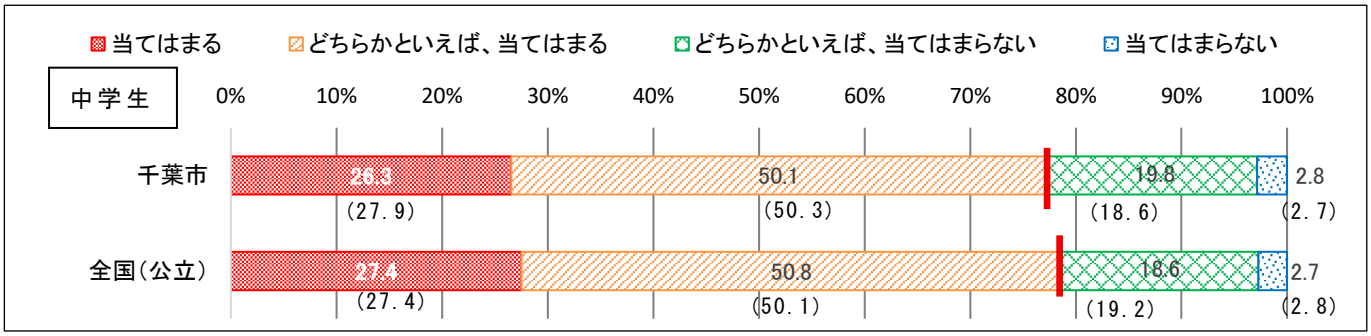


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.2%（全国より 0.8 ポイント低い）

13　分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

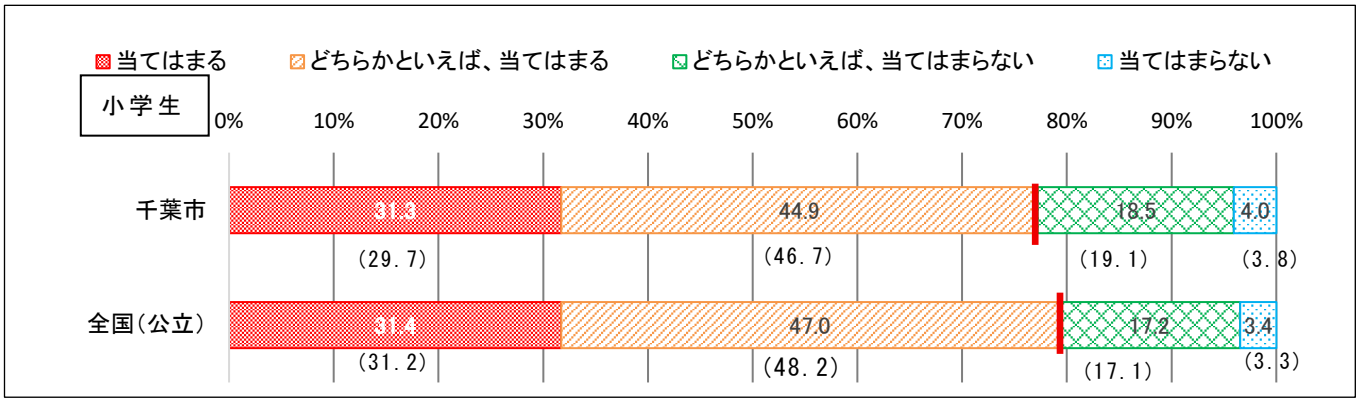


・できている、どちらかといえばできている→79%（全国より 0.4 ポイント低い）

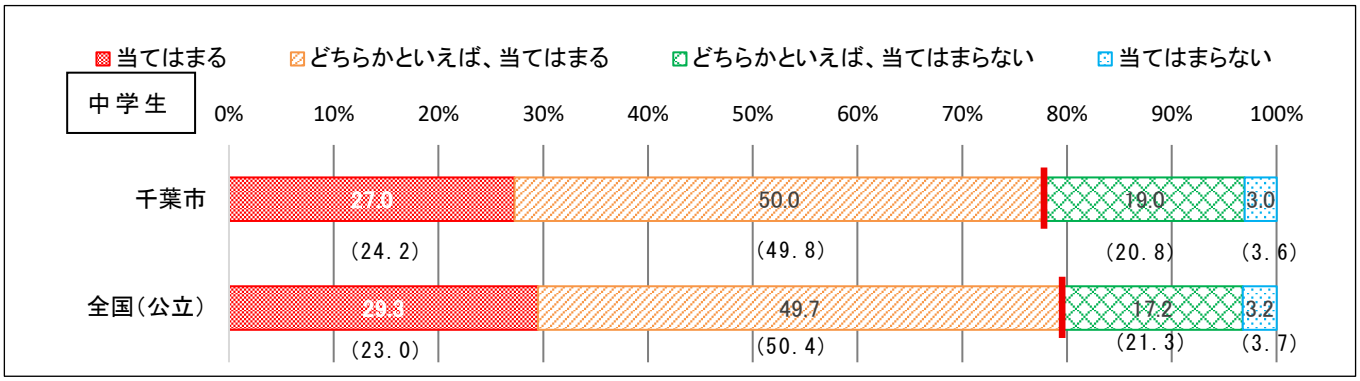


・できている、どちらかといえばできている→76.4%（全国より 1.8 ポイント低い）

14　学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

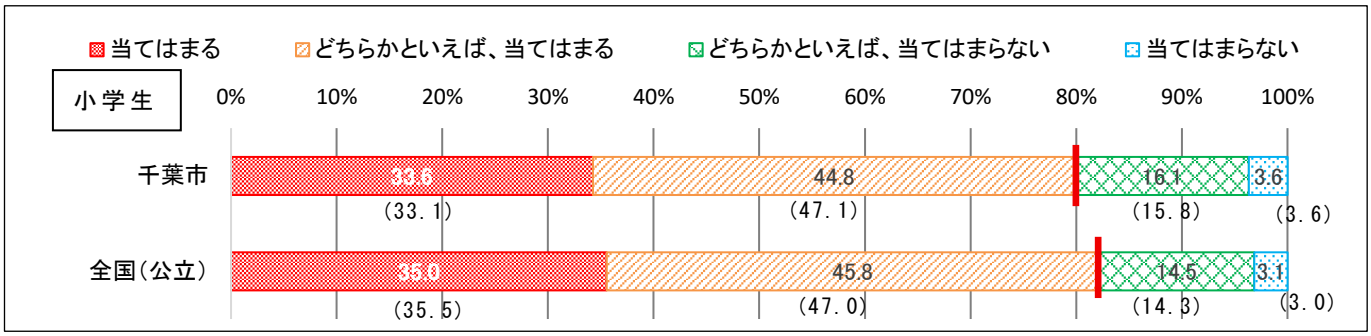


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.2%（全国より 2.2 ポイント低い）

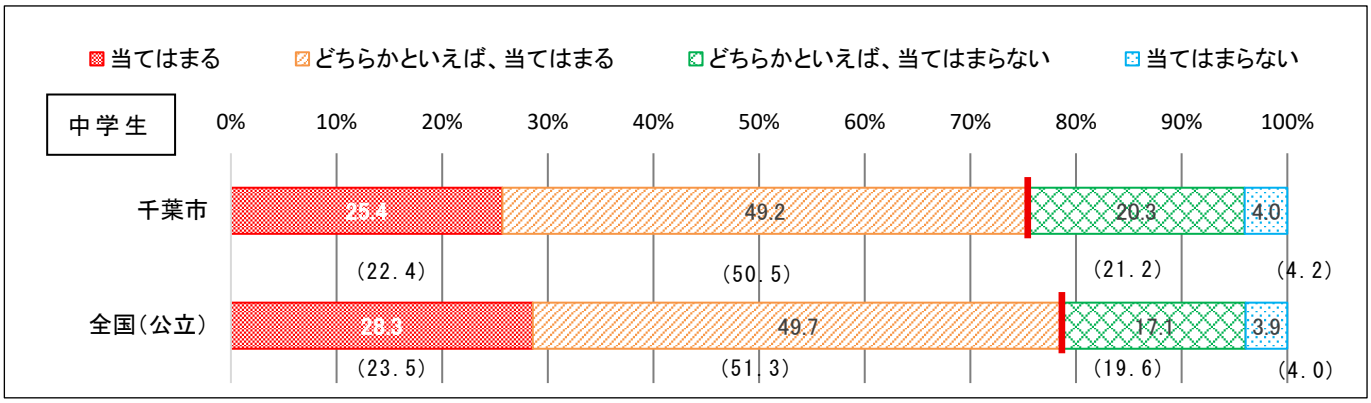


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→77.0%（全国より 2.0 ポイント低い）

15　授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。

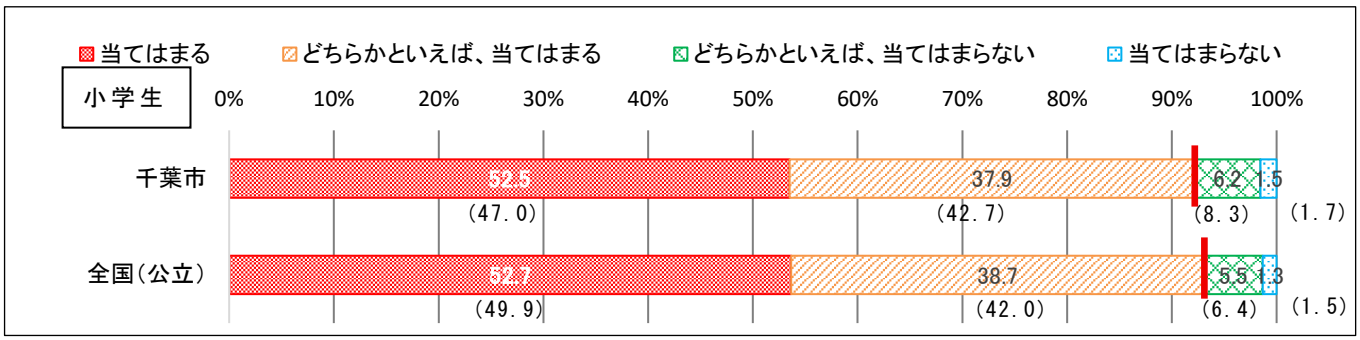


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→78.4%（全国より 2.4 ポイント低い）

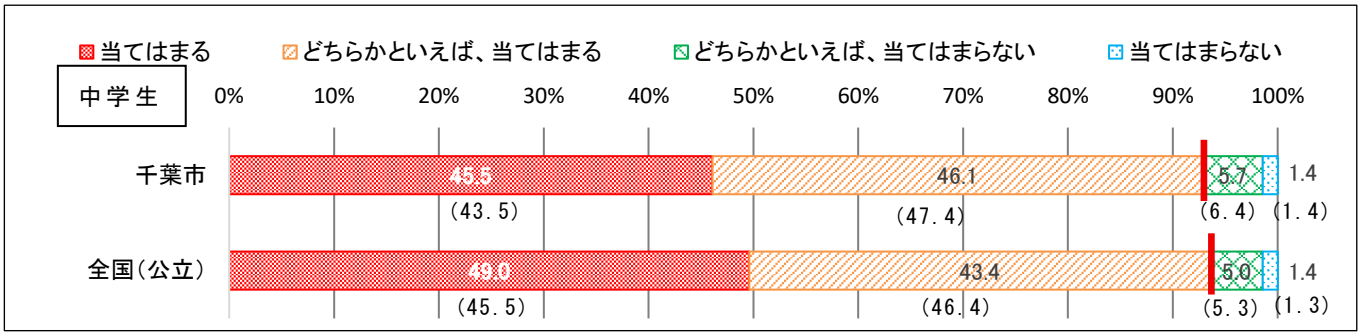


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→74.6%（全国より 3.4 ポイント低い）

16　授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.4%（全国より1.0ポイント低い）



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→91.6%（全国より0.8ポイント低い）

○項目８　「自分の考えを発表する工夫」が小学校においては全国平均を上回っており、資料や文章、話の組み立てなどを工夫することへの意識が高いことが伺える。

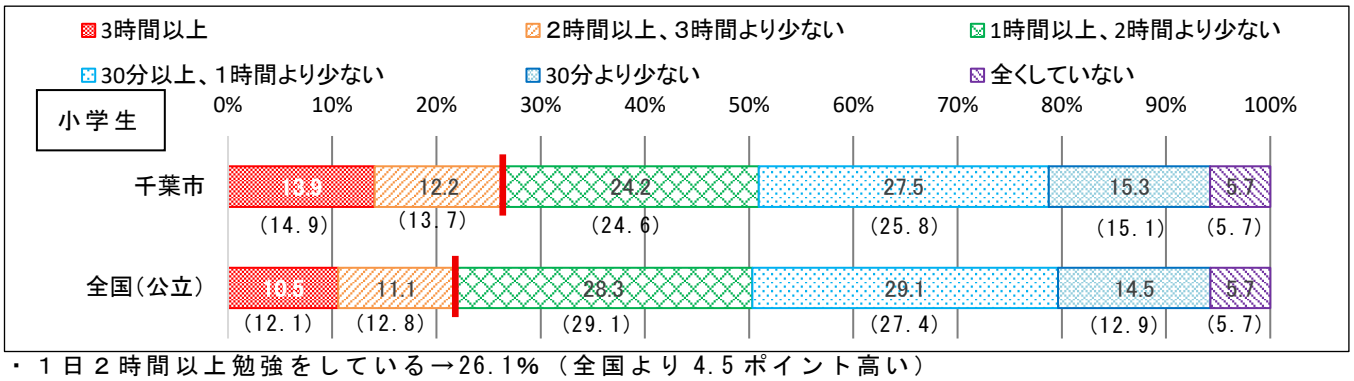
○項目11「授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっているか」については、小中ともに全国同等以上となっており、授業に対して一定の満足度を示しているのが分かる。また、自己の学びを客観視するという意味で、自己調整力が育ってきていることが読み取れる。

○項目16「友達や周りの考えを大切にして協力して課題解決に取り組んでいるか」については、全国比では小中共に低いものの、昨年度の全国比較（小学生…全国より2.2ポイント低い　中学生…全国より1.0ポイント低い）より向上が見られており、協働的な学びを行う上での意識が高まってきていることが伺える。

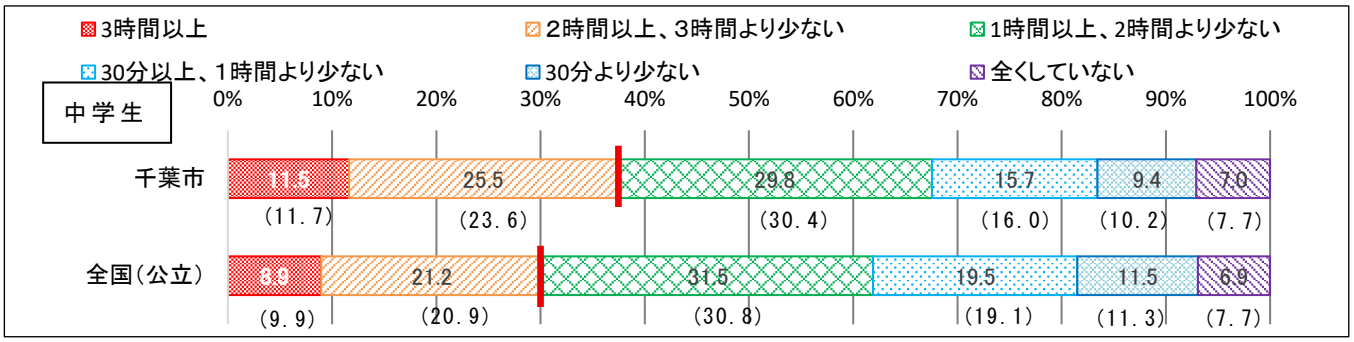
ただし、学習した内容を見直し次の学習につなげることや、学んだことを実生活と結び付けて考えたり生かしたりすることなどには課題が見られるので、千葉市学校教育の課題に挙げられている「探究的な学習や体験・交流活動で学び合う学習の充実」により、主体的・対話的で深い学びの一層の充実が求められる。

〔家庭での学習に関する意識〕

17　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

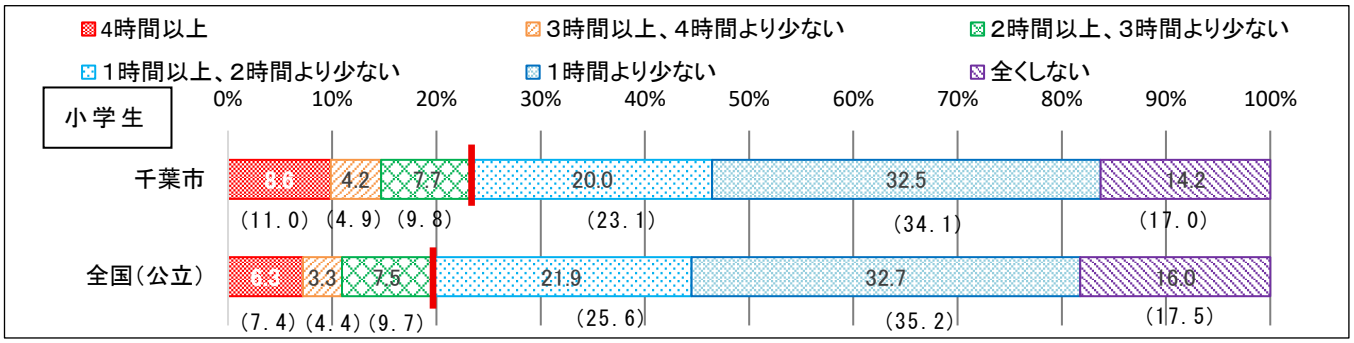


・１日２時間以上勉強をしている→26.1%（全国より 4.5 ポイント高い）
・30 分より少ない、全くしない→21.0%（全国より 0.8 ポイント高い）

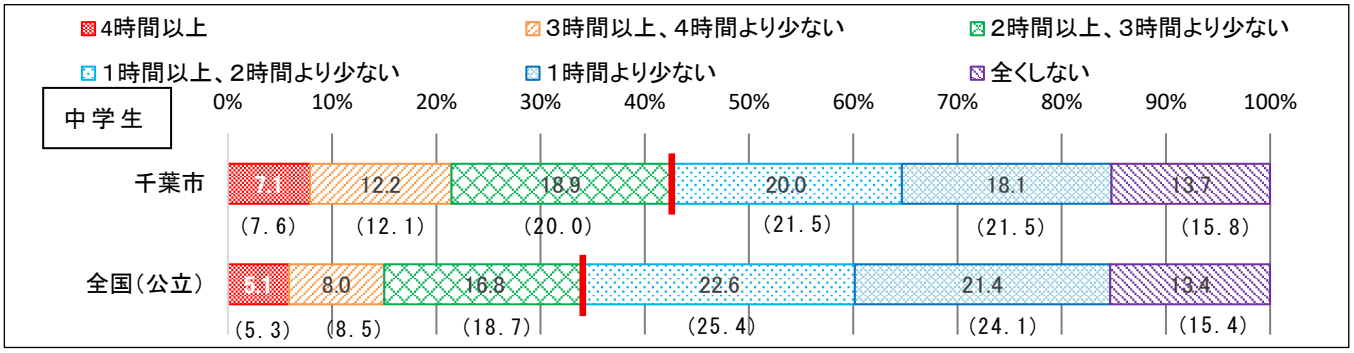


・１日２時間以上勉強をしている→37.0%（全国より 6.9 ポイント高い）
・30 分より少ない、全くしない→16.4%（全国より 2.0 ポイント低い）

18　土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



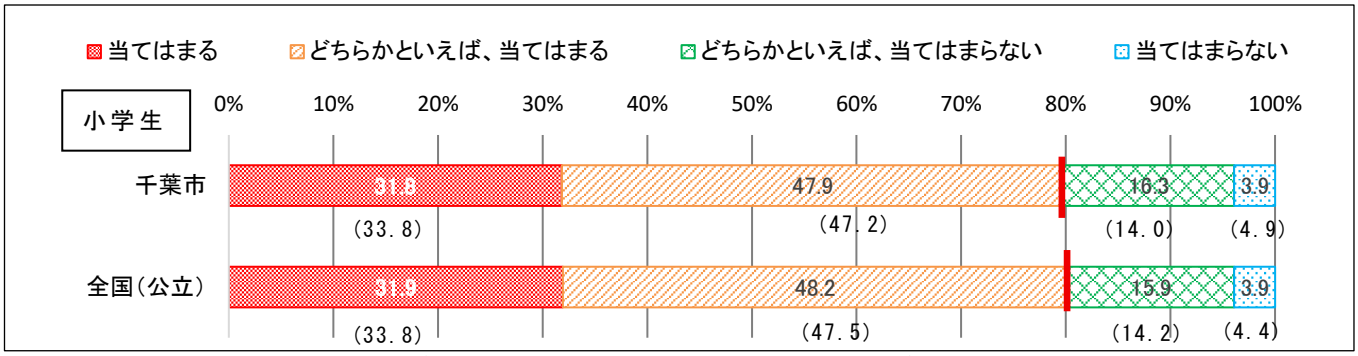
・１日２時間以上勉強をしている→20.5%（全国より 3.4 ポイント高い）
・全くしない→14.2%（全国より 1.8 ポイント低い）



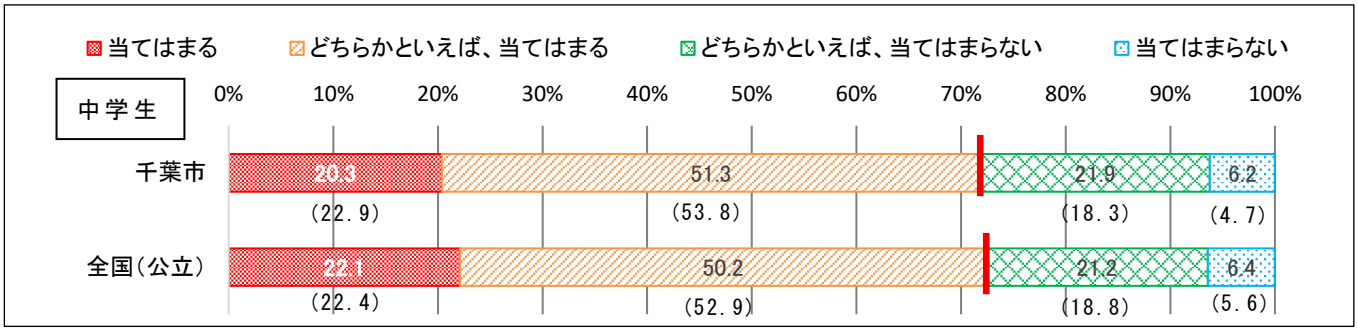
・１日２時間以上勉強をしている→38.2%（全国より 8.3 ポイント高い）
・全くしない→13.7%（全国より 0.3 ポイント高い）

〔地域・社会との関わりに関する意識〕

19　地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→79.7%（全国より0.4ポイント低い）



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→71.6%（全国より0.7ポイント低い）

４　今後の取組

（１）児童生徒の確かな学力の育成を図るため、**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**を推進する。そのために以下のような取組を行う。

○全国学力･学習状況調査及び千葉市学力状況調査の結果を分析し、各校の児童生徒の良い点や伸ばしたい点を整理するとともに、学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けて**「学力向上アクションプラン」の見直し**を行う。その際、

- **課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組めるような活動**
- **学習した内容を見直し、次の学習につなげる活動**
- **学んだことを、実生活と結び付けて考えたり生かしたりする活動**

を大切にする。

○全国学力･学習状況調査の調査結果の分析と、それを踏まえた学習指導の改善･充実に向けたポイントを示した**リーフレット「結果概要と授業改善のすすめ」**や、課題となった調査問題ごとに誤答例や授業改善のポイントを収録した**解説動画「学力向上への取組」**を各学校に配付する。それらをもとに、日々の授業の改善を図り、課題となっていた資質･能力の育成を目指す。

- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること（国語）
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること（国語）
- 立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること（算数）
- 事柄・事実、方法・手順や理由を説明すること（数学）
- 事実や考え、気持ちを整理し、目的や相手に応じてまとまりのある文章を書くこ

○全国学力・学習状況調査の**調査結果において顕著な向上が見られた学校の具体的な取組**について、全市に展開する。

○ＩＣＴを活用した個別最適な学びや家庭学習におけるギガタブ活用の充実を図るなど、**ＩＣＴの効果的かつ主体的な活用について一層推進**していく。特に、児童生徒が課題解決に向けて、必要に応じてＩＣＴを自ら選択・活用できるように学校訪問等で指導・助言する。また、本市児童生徒の肯定的回答割合が高かったＩＣＴを活用したプレゼンテーション作成と結び付けること、ドリルパークなど取り組みやすい家庭学習を促進すること、テストパークを活用して自分の学力の傾向や課題を把握することなどを通して、深い学びと１人１台端末の活用機会の一層の充実を図る。

（２）**教育委員会のホームページ**や**各学校が作成するプリント「家庭学習のすすめ」**等を通して、全国学力･学習状況調査の結果概要と分析を踏まえ、授業における取組の様子や、ＩＣＴ機器を活用した学習の効果、家庭学習の大切さ等について、広く保護者に発信する。

（３）自己肯定感を高める指導方法や将来の生き方について考え、夢や目標を持つことができる**キャリア教育**を推進する。

○**千葉市キャリア教育の基本方針「未来を拓くキャリア教育」**を踏まえた「キャリア教育グランドデザイン」とキャリア・パスポートの活用を通じた指導の充実を図る。

○企業や各種団体、地域、家庭と連携を図りながら、**職業体験学習**（職場体験や出前授業等）の充実を図る。